

## オートマテイツク トランスミツシヨン

断面図 .....	8-2
仕様 .....	8-2
点検 .....	8-3
調整 .....	8-5
テスト .....	8-6
シフトレバー .....	8-13
トランスミツシヨン本体 .....	8-26
車上整備 .....	8-27
トランスミツシヨン脱着 .....	8-38



断面図

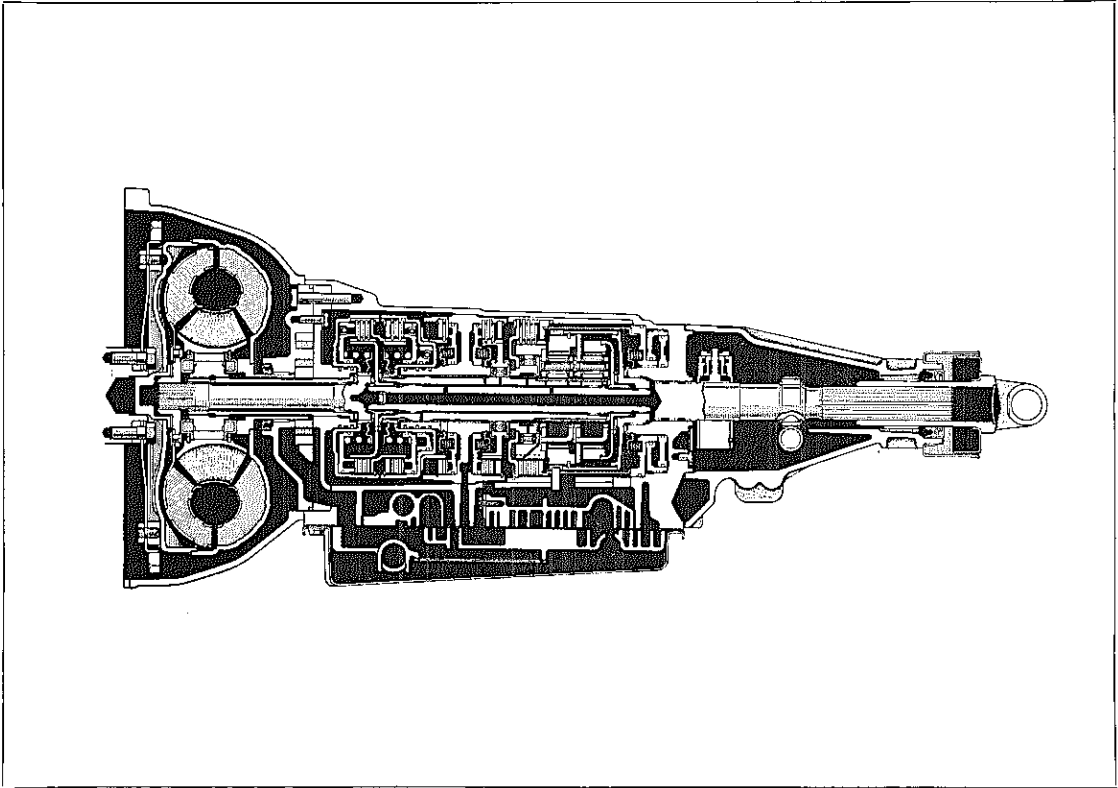


図8-1 オートマテイツク トランスミツシヨソ<A40型>断面図

S4942

仕様および整備基準値

表8-1

項	目	仕	様
変 速 機	型 式	3要素, 1段, 2相型	
	ストールトルク比	2,200 (3T-U, 16R-J, 18R-U, M-U, M-E U) 1,780 (4M-U)	
	ストール回転数 (rpm)	16R-J 1650~1950	3T-U, 18R-U M-U M-E U 1850~2150
補 助 変 速 機	ギ ャ ト レ ー ン	シンプソン式3速遊星歯車	
	ク ラ ッ チ	多板式ディスク×2	
	ブ レ ー キ	多板式ディスク×3	
	制 御 方 式	油圧制御式自動変速	
ギ ャ 比	フ ァ ー ス ト	2.450	
	セ カ ン ド	1.450	
	サ ー ド	1.000	
	リ バ ー ス	2.222	

点 検

点 検 項 目	点 検 手 順 お よ び 要 領
点検準備	(1) 車両を平坦路面に置く。 (2) 車両の前方および後方の安全を確保し次の点検を行なう。
ニュートラル セーフティ スイツチの点検	(1) シフト レバーをNまたはP レンジにシフトしたときのみエンジンが始動し、他のレンジでは始動しないこと。 (2) シフト レバーのR レンジ以外でバック アップ ランプは点灯しないこと。
シフト レバーの位置点検  <p style="text-align: center;">~~~~~(注意)~~~~~</p> S.52.7以降は2 レンジにシフトする場合シフト レバー ノツブ ボタンを押しなければならない。 <p style="text-align: center;">~~~~~</p>	(1) N レンジからD レンジにシフトしたとき、車両が前進し、R レンジにシフトしたとき後退すること。 (2) エンジンを停止する。 (3) シフト レバーをN レンジからD、2 と各レンジに順次シフトする。 このときシフト レバーは円滑に操作でき、各レンジに節度よく動き、ポジション インジケータは正確に指示していること。 (4) シフト レバー ノツブ ボタンを押したときのみP、R、Lの各レンジにシフトできること。 (コラム シフトの場合、レバーを手前に引いて動かしたときのみ)
エンジン アイドル回転数の点検	(1) パーキング ブレーキ レバーをいっぱい引き、フロント ホイール前後に輪止めをする。 (2) エンジン回転計を取り付ける。 (3) エンジンを暖機する。(水温75~85°C) (4) N レンジにてエンジン アイドル回転数が基準値内にあること。 基準値 (N レンジ) C-TX, H-RX, C-RX, G-MX全車 700~800rpm E-MX車 750~850rpm

オートマテイツク トランスミッションの  
油量点検

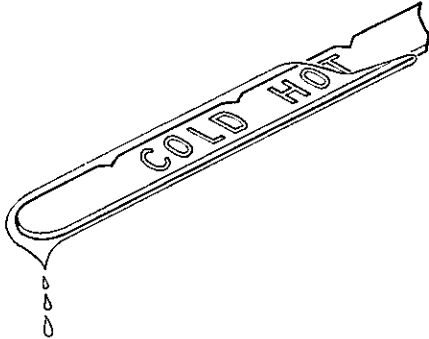


図8-2

S4943

- (1) エンジン アイドル回転状態でシフト レバーを P から L まで各レンジ一巡した後、P レンジにもどす。
- (2) 油量がレベル ゲージの「HOT」の範囲にあるかどうかを点検する。
- (3) 油量が少ない場合「HOT」の上限までキャブスル オート フルード スペシャルを補充する。

〈注意〉

- 1 油量は油温70~80°Cで点検のこと。
- 2 油量が少ないときは、トランスミッションからのオイル漏れを点検する。

キャブレタ スロットル バルブ全開

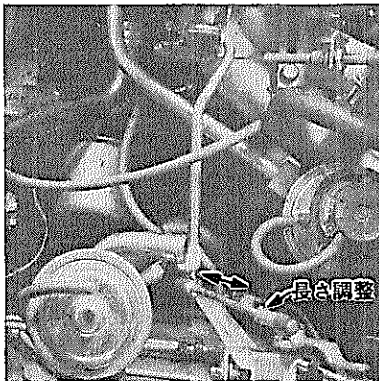


図8-3

H0192

- (1) エンジンを停止する。
- (2) キャブレタ スロットル レバー、スロットル リンクに曲がりのないこと。
- (3) アクセル ペダルをいっぱい踏み込み、キャブレタ スロットル バルブが全開していること。
- (4) 全開していない場合は、アクセル コントロール リンクを調整して修正する。

スロットル ケーブルの点検

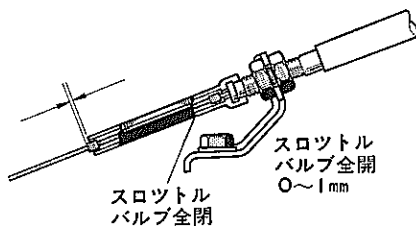


図8-4

M1400

- (1) スロットル ケーブルは、キャブレタ ファースト スロットル レバーに確実に取り付けられ、ワイヤに曲がりがないことを確認する。
- (2) スロットル バルブ全開時、ケーブル調整用マークの先端がブーツ先端より0~1mm出た位置にあればよい。

スロットル バルブ全開基準値 0~1mm

調整

SST, 工具, 計器

計器	サーキット テスタ
----	-----------

ニュートラル セーフティ スイッチ

シフト レバーのポジションがN, Pレンジ以外のレンジでエンジンが始動可能ならば, 下記の要領で調整する。

- (1) セット ボルト①をゆるめシフトレバーを N レンジの位置にしたときスイッチの切りみぞとニュートラル基準線が合うようにスイッチを動かして調整する。
- (2) セット ボルト①を締め付ける。  
T=40~70kg-cm

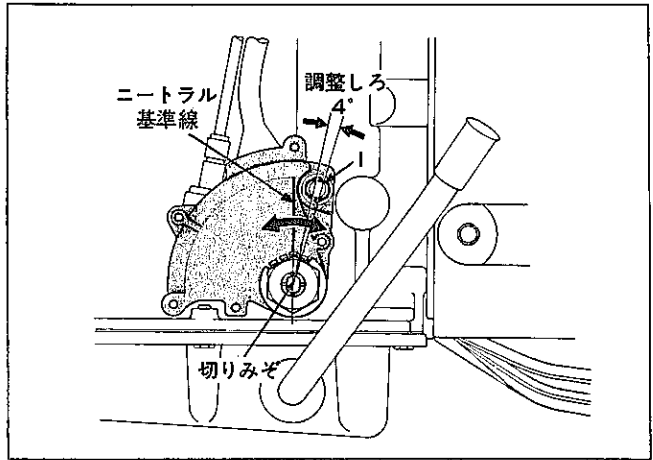


図8-5 ニュートラル セーフティ スイッチ調整 S3462

- (3) サーキット テスタを用いて導通を点検する。
- (4) 調整後スイッチの機能を点検する。

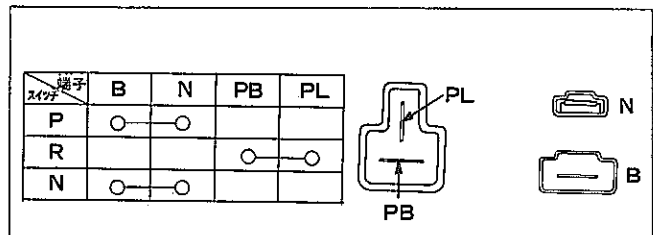


図8-6 導通テスト S6073

スロットル ケーブル

点検を行ない調整を要する場合, またはスロットル ケーブル交換時, 次の要領で調整する。

- (1) キャブレタ スロットル レバーおよびスロットル ケーブル ブラケットに曲がりのないことを確認する。
- (2) キャブレタ スロットル バルブを全開にした状態で, ケーブル調整用マークの先端がブーツ先端より0~1mm出た位置になるようにアジャスト ナットを調整して固定する。

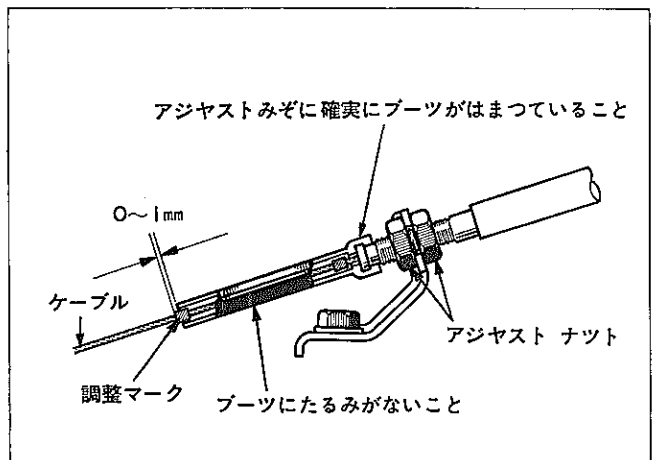


図8-7 スロットル ケーブル調整 M1400

テ ス ト

〈注意〉

テストは必ず基本的な点検および調整を行なった後に行なう。

ストール テスト

このテストは各レンジ (D, R) におけるエンジン最高回転数を測定し、トランスミッションおよびエンジンの総合性能を調べるものである。

基準値

18R-U, M-U ... 1850~2150rpm

M-E U, 3T-U

4M-U ..... 1750~2050rpm

16R-J ..... 1650~1950rpm

〈注意〉

- 1 このテストは通常走行状態の油温 (50~80°C) で行なうこと。
- 2 5秒以上連続して行なわないこと。

判 定

- 1 各レンジのストール回転数は等しいが基準値よりも低い場合
  - (1) エンジンの出力が不足
  - (2) ステータ ワン ウエイ クラッチの作用不良

〈参考〉

基準値より600rpm 以上低い場合はトルクコンバータの不良と推察される。

- 2 D レンジのストール回転数が基準値より高い場合
  - (1) フロント クラッチのすべり
  - (2) ワン ウエイ クラッチ No.2 の作用不良
  - (3) ライン プレッツシャが低い
- 3 R レンジのストール回転数が基準値よりも高い場合
  - (1) リヤ クラッチのすべり
  - (2) ブレーキ No.3 のすべり
  - (3) ライン プレッツシャが低い

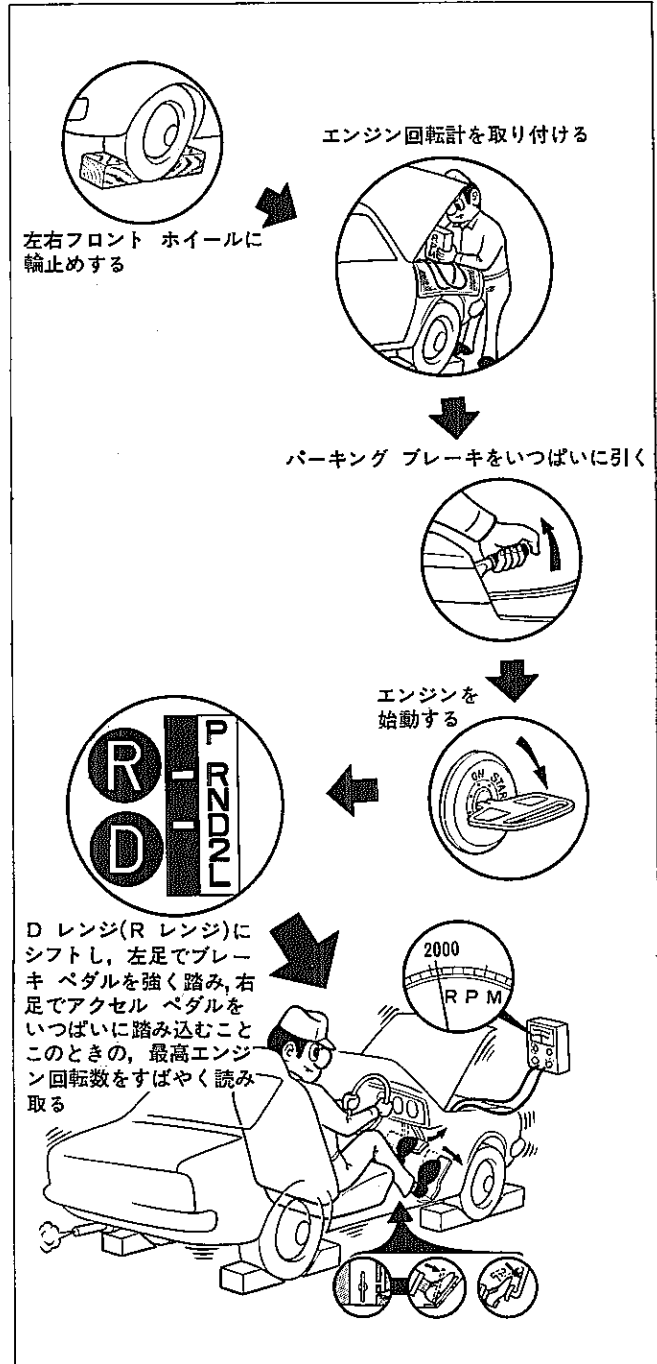


図8-8 ストール テスト

S4948

### タイム ラグ テスト

エンジン アイドル回転で、シフト レバーをシフトしてから、シヨツクを感じるまでの時間をタイム ラグといい、フロント クラツチ、リヤ クラツチ、ブレーキ No.3, およびライン プレッツシャの状態を調べるものである。

#### 基準値

シフト レバー ポジション	タイム ラグ
N → D	1.2秒以下
N → R	1.5秒以下

#### 〈注意〉

- 1 通常走行状態の油温 (50 ~ 80°C) であること。
- 2 1分間の測定間隔をおくこと。

#### 判定

- 1 N→D のタイム ラグが基準値より大きい場合
  - (1) ライン プレッツシャが低い
  - (2) フロント クラツチの摩耗
- 2 N→R のタイム ラグが基準値より大きい場合
  - (1) リヤ クラツチの摩耗
  - (2) ブレーキ No.3 の摩耗
  - (3) ライン プレッツシャが低い

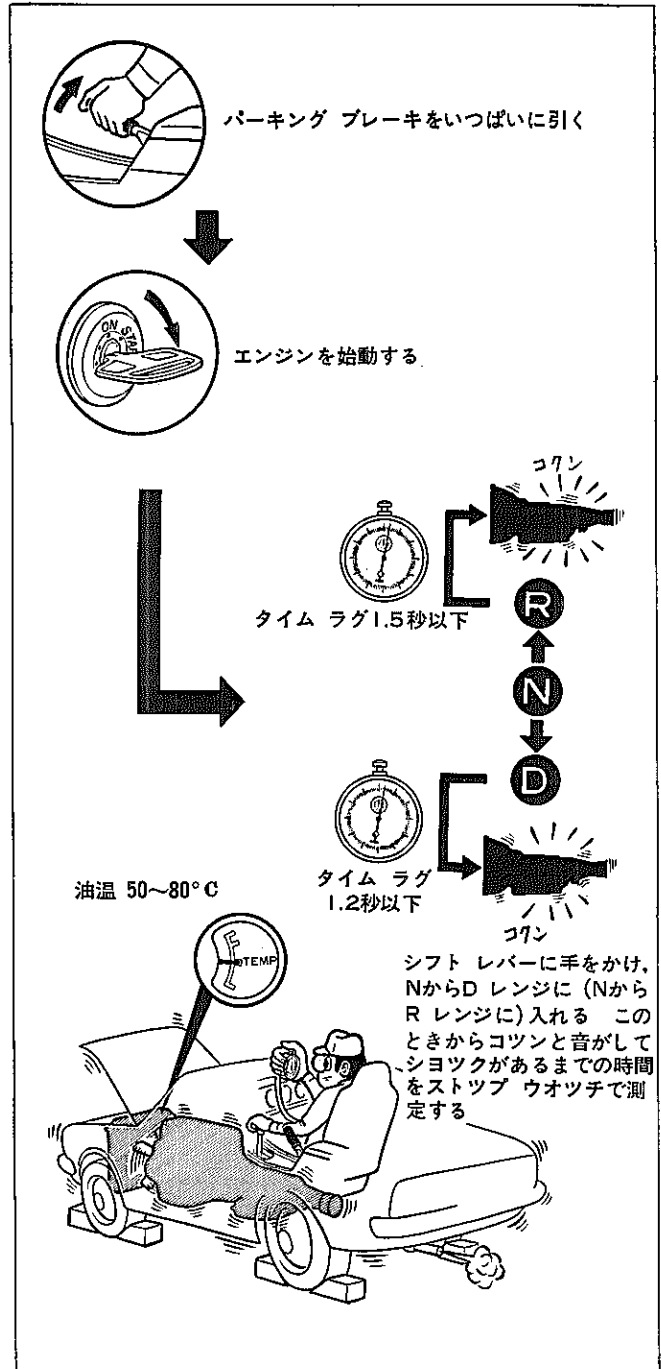


図8-9 タイム ラグ テスト

S4949

油圧テスト

SST, 計器, 工具

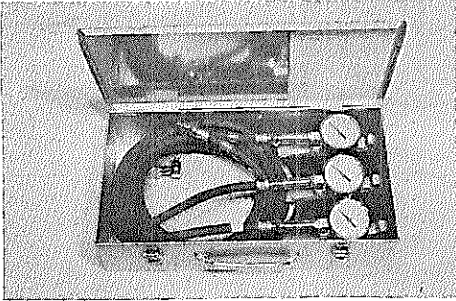
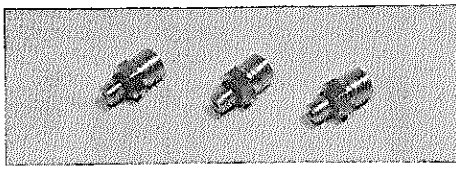
計器		紹介工具 バンザイ	トヨグライド用オイル プレツシヤ ゲージ
工具		紹介工具 バンザイ	オイル プレツシヤ ゲージ A40型用アダプタ

図8-10

C4745 C4746

測定準備

- (1) 車両をドラム テスタ またはスピードメータ テスタ上にセットする。
- (2) トランスミツシヨン ケースのテスト プラグを取りはずし 油圧ゲージを取り付ける。

〈注意〉

A40型用アダプタを使用すること。

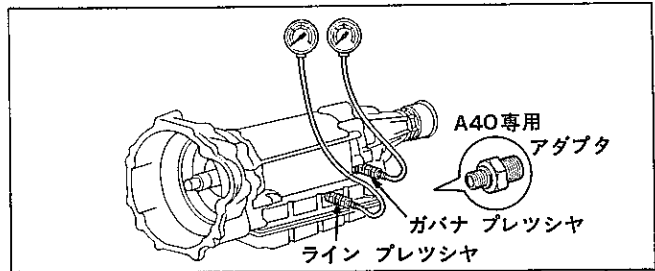


図8-11 油圧ゲージ取り付け

M1401

ガバナ プレツシヤ測定

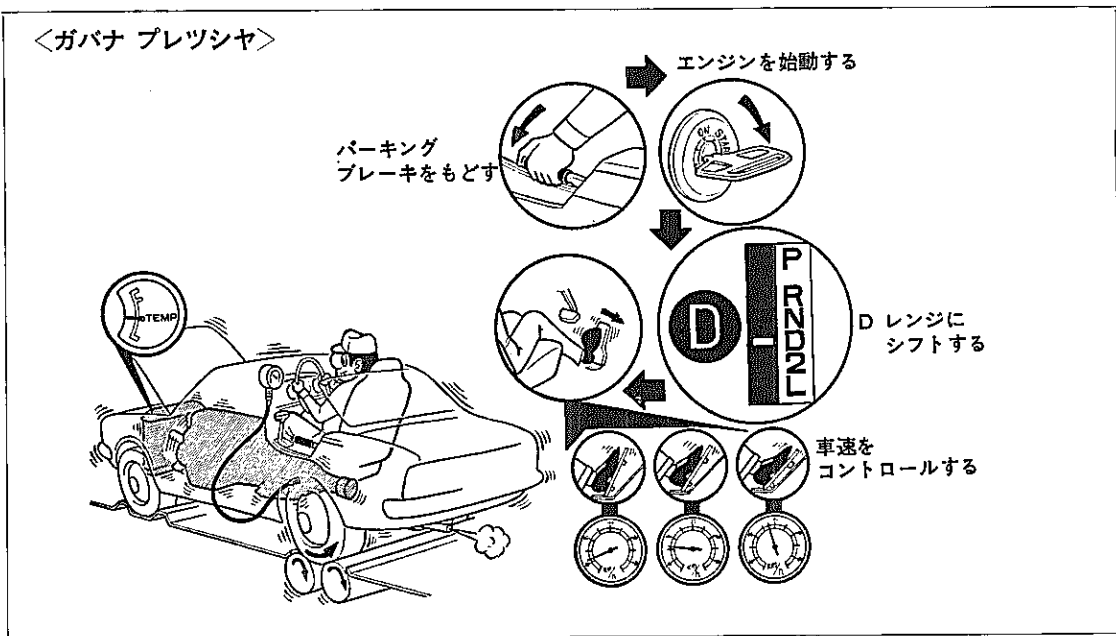


図8-12 油圧テスト (ガバナ プレツシヤ)

S4950

判 定

ガバナ プレッツシャの不良の場合

- (1) ライン プレッツシャ不良
- (2) ガバナ プレッツシャ回路の油漏れ
- (3) ガバナ バルブの作動不良

表8-2

アウトプット シャフト回転数 (rpm)	車 速 (km/h)		ガバナ プレツシャ (kg/cm <sup>2</sup> )
	デフ ギヤ比 3.909	4.100	
1000	29	28	0.9 ~ 1.5
1800	53	50	1.6 ~ 2.2
3500	102	97	4.1 ~ 5.3

ライン プレッツシャ測定

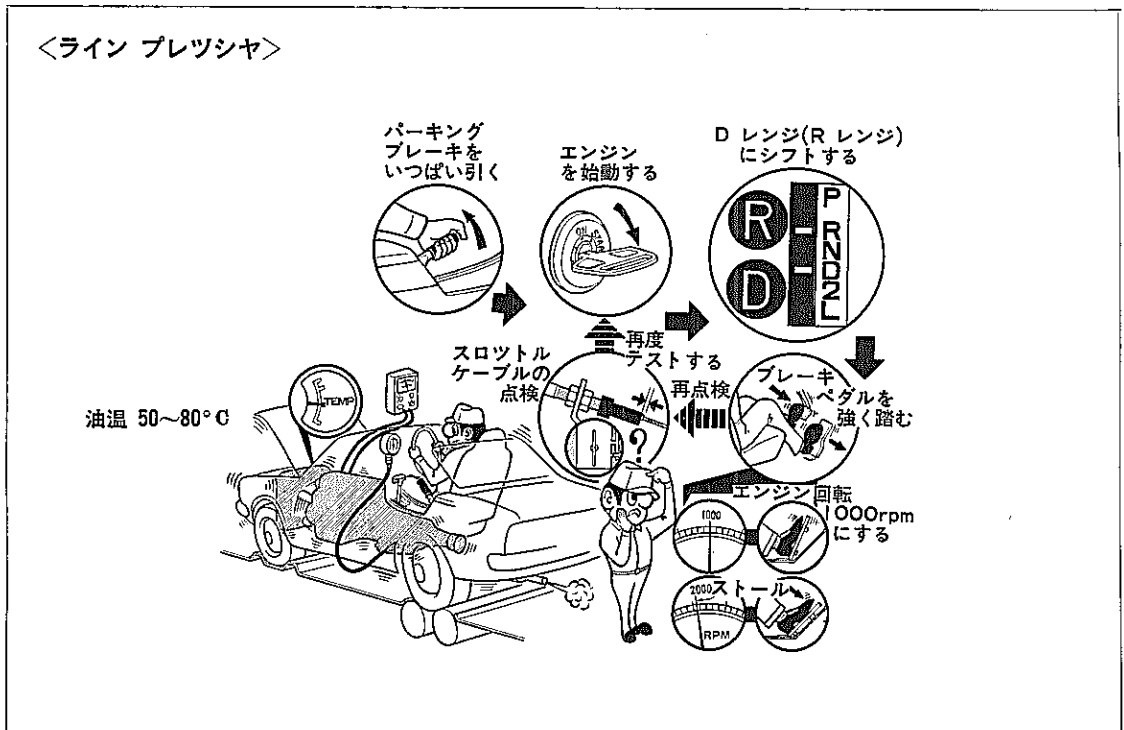


図8-13 油圧テスト (ライン プレッツシャ)

S4951

基準値 表8-3

エンジン回転数 (rpm)	ライン プレッツシャ (kg/cm <sup>2</sup> )	
	D レンジ	R レンジ
1000	4.0~4.5	5.8~6.8
ス ト ー ル	9.5~12.0	14.0~17.0

〈参考〉

ストール回転数

- 4M-U 1750~2050rpm
- 18R-U, M-U 1850~2150rpm
- M-E U, 3T-U
- 16R-J 1650~1950rpm

判 定

各レンジの測定値が基準値より高い場合	(1) レギュレータ バルブ作用不良 (2) スロットル バルブ作用不良 (3) スロットル ケーブル調整不良
各レンジの測定値が基準値より低い場合	(1) オイル ポンプの不良 (2) レギュレータ バルブ作用不良 (3) スロットル バルブ作用不良 (4) スロットル ケーブル調整不良
D レンジで 油圧が低い場合	(1) D レンジの油圧回路にフルード漏れ (2) フロント クラッチ不良 (ピストンからフルード漏れ)
R レンジで 油圧が低い場合	(1) R レンジの油圧回路にフルード漏れ (2) ブレーキ No.3の不良 (ピストンからのフルード漏れ)

## 走行テスト

### D レンジのテスト

D レンジにシフトし、アクセルレータ ペダルの踏み加減を一定（スロットル バルブ開度 $\frac{3}{4}$ および $\frac{1}{4}$ ）に保つて発進し、次の点検を行なう。

- (1) 各スロットル バルブ開度で 1→2 および 2→3 アップ シフトの有無および変速点が自動変速線図に適合しているかどうかを点検する。

#### 〈注意〉

- 1 1→2のアップ シフトがない場合
  - ガバナ バルブの不良
  - 1→2シフト バルブ固着
- 2 2→3のアップ シフトがない場合
  - 2→3シフト バルブ固着
- 3 変速点が不良の場合
  - スロットル ケーブルの調整不良
  - スロットル バルブ、1→2シフト バルブ、2→3シフト バルブ、ガバナ バルブなどの作用不良

- (2) 同じ要領で 1→2 および 2→3 アップ シフト時のシヨツクおよび滑りを点検する。

#### 〈注意〉

- シヨツクが大きい場合
- ライン プレツシヤが高い
  - アクキユームレータ作用不良
  - チェツク ボール作用不良

### 2 レンジのテスト

- (1) 2 レンジにシフトし、スロットル バルブ開度 $\frac{3}{4}$ 、および $\frac{1}{4}$ で発進し、各スロットル バルブ開度での 1→2 アップ シフトの変速点が自動変速線図に適合するかを点検する。
- (2) 2 レンジ セカンド ギヤの状態からキツク ダウンを行ない、2→1のキツク ダウン可能限界車速が自動変速線図に適合するかを点検する。
- (3) 加速時および減速時の異音およびアップ シフト、ダウン シフト時のシヨツクを点検する。

### L レンジのテスト

- (1) L レンジで走行した場合、セカンド ギヤにアップ シフトしないことを確認する。

- (3) D レンジ サード ギヤで走行し、異音および振動を点検する。

#### 〈注意〉

異音および振動は、プロペラ シャフト、デイフアレンシヤル、タイヤ、トルク コンバータ、エンジンなどのアンバランスあるいは、パワー トレン系の曲げ剛性などが原因している場合があるので診断には注意すること。

- (4) D レンジ セカンドおよびサード ギヤで走行時、キツク ダウンを行ない 2→1、3→1 および 3→2 のキツク ダウン可能限界車速が自動変速線図に適合しているかどうかを点検する。

- (5) D レンジ サード ギヤで走行時 2 および L レンジにシフトし、各レンジでのエンジンブレーキ作用を点検する。

#### 〈注意〉

- 1 2 レンジでエンジン ブレーキが作用しない場合  
ブレーキ No.1の作用不良
- 2 L レンジでエンジン ブレーキが作用しない場合  
ブレーキ No.3の作用不良

- (6) D レンジ サード ギヤで走行時、アクセルレータ ペダルから足を離し、L レンジにシフトして、3→2 または 2→1 のダウン シフトの変速点が自動変速線図に適合しているかどうかを点検する。

- (2) 加速時および減速時の異音の有無を点検する。

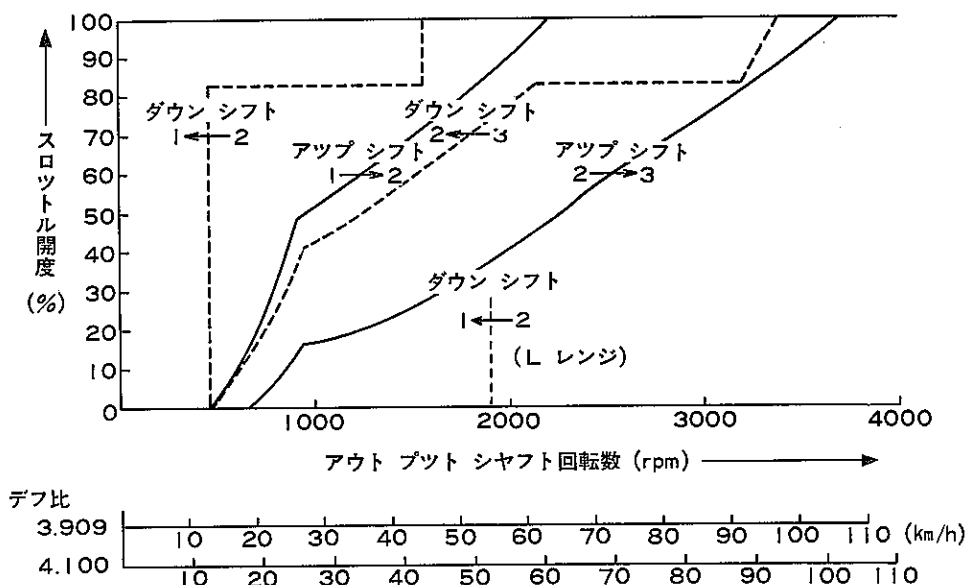
### R レンジのテスト

- (1) R レンジに入れ、フル スロットルで発進し、すべりの有無を点検する。
- (2) 車両が動いている状態から軽くアクセルレータ ペダルを踏み込み、滑りの有無を点検する。

### P レンジのテスト

- (1) 車両を坂路（約 $5^\circ$ 以上）に停止させP レンジにシフトし、パーキング ブレーキ レバーをもどす。このときパーキング ロツク ポールが作用して、車両が動かないことを確認する。

〔C-TX, C-RX, H-RX系〕



〔C-MX, E-MX系〕

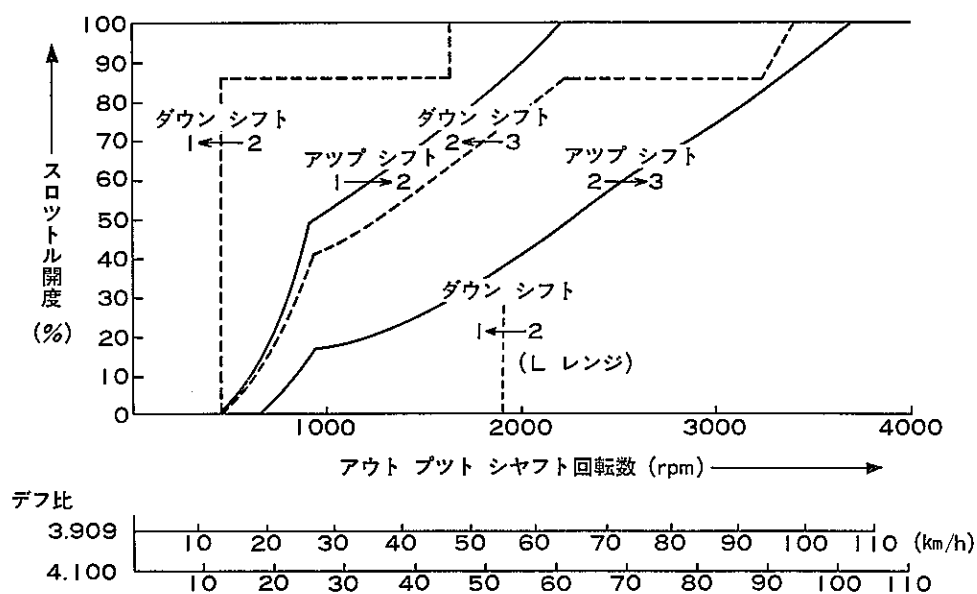


図8-14 自動変速線図

M1402 M1403

表8-4 自動変速点

ディファレン シャル ギヤ 比	タイヤ サイズ	D レンジ スロットル バルブ全開 (km/h)				L レンジ (km/h)
		1→2	2→3	3→2	2→1	2→1
3.909	6.45-14-4PR 175SR14 185/70 HR 14	51~66	95~110	89~104	38~50	45~60
4.100	6.45-14-4PR 175SR14 6.95-14-6PRLT	49~64	91~106	87~102	38~50	42~57

シフト レバー

構成部品および締め付けトルク

<フロア シフト>

1 ボタン, シフト レバー ノツブ  
 2 スプリング, コンプレツション  
 3 カラー  
 4 ノツブ サブ ASSY, シフト レバー  
 5 ボルト, セツト  
 6 スリッパ, シフト レバー ノツブ  
 7 ロツド, デイテント  
 8 ビン, スロツテツド スプリング  
 9 スプリング, コンプレツション  
 10 サポート, ポジション インジケータ  
 11 プレート, コントロール ポジション インジケータ  
 12 カバー, スライド  
 13 ハウジング, ポジション インジケータ ローラ  
 14 レバー サブ ASSY, シフト  
 15 プレート サブ ASSY, シフト レバー  
 16 ブーツ, シフト レバー キヤツプ  
 17 プシユ  
 18 シヤフト, コントロール

<コラム シフト>

1 ハウジング, インジケータ ポジション  
 2 ブラケツト, ステアリング コラム アツバ  
 3 コード, ドライブ  
 4 インジケータ, コントロール ポジション  
 5 リング, スナツプ  
 6 プシユ, アツバ コントロール シヤフト, ピース  
 7 プーリ, ドライブ  
 8 シヤフト, コントロール シヤフト  
 9 カバー, シフト レバー ハウジング  
 10 レバー, シフト  
 11 ビン, シフト レバー  
 12 シヤフト サブ ASSY, コントロール  
 13 プシユ, アツバ コントロール シヤフト ピース  
 14 リテーナ, コントロール シフト レバー  
 15 ブラケツト, コントロール シヤフト, ローラ  
 16 プシユ, コントロール シヤフト, ローラ  
 17 レバー, コントロール シヤフト  
 18 プシユ  
 19 ビン, コントロール シヤフト レバー スツツバ  
 20 ビン, レバー ロツク  
 21 スイベル, コネクティング ロツド  
 22 サポート サブ ASSY, クロス シヤフト  
 23 クロス シヤフト サブ ASSY  
 24 ロツド, トランスミツション コントロール  
 25 ロツド, トランスミツション  
 26 サポート, クロス シヤフト, No.1

〔締め付けトルク単位: kg-cm〕

図8-15 構成部品および締め付けトルク

M1737 M1476 M1477

### フロア シフト レバー

取りはずし

- (1) シフトをN レンジにする。
- (2) 車両後部をジャッキ アップしコネクティング ファースト ロッドを切り離す。

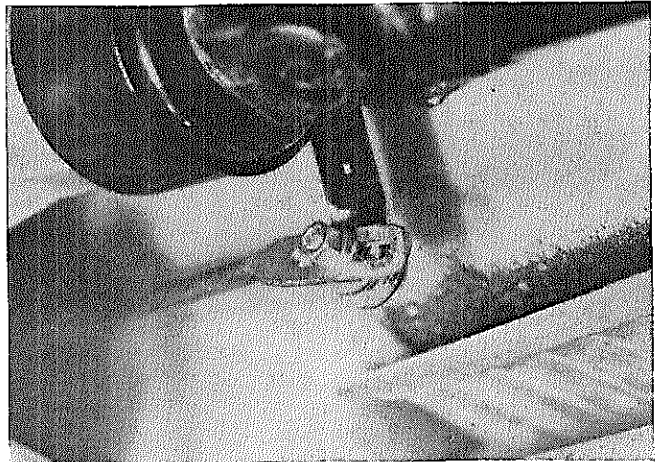


図8-16 ファースト ロッド切り離し

C9968

(3) 次の部品を取りはずす。

- ① リヤ コンソール ボックス
- ② フロント コンソール ボックス

~~~~~  
〈注意〉  
~~~~~

カー ステレオ付きの場合は、ラジオとの配線をははずす。

- ③ インジケータ ランプ配線
- ④ フロア シフト ASSY

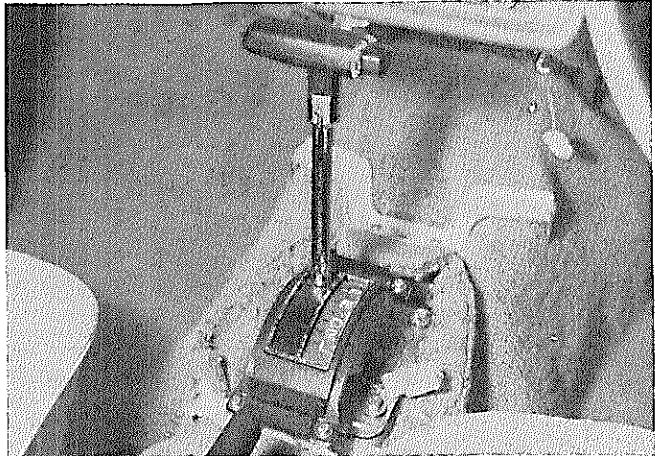


図8-17 フロア シフト ASSY取りはずし

C9969

### 分 解

(1) 次の部品を取りはずす。

- ① シフト レバー ノツブ  
六角レンチ (2.5mm) を使用し、  
セット ボルトをゆるめる。

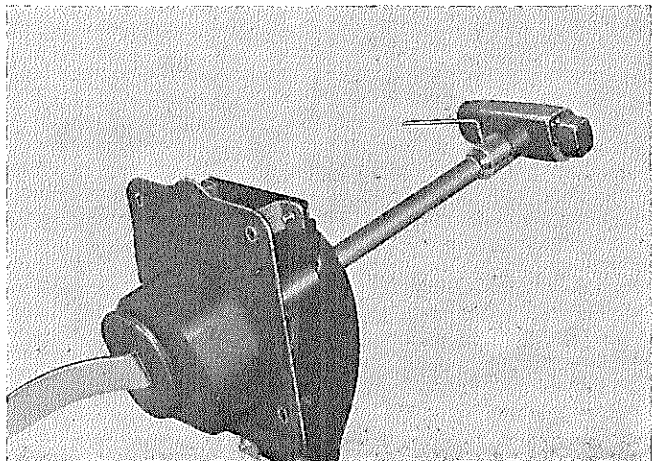


図8-18 ノツブ取りはずし

C9970

- ② ポジション インジケータ ハウジング

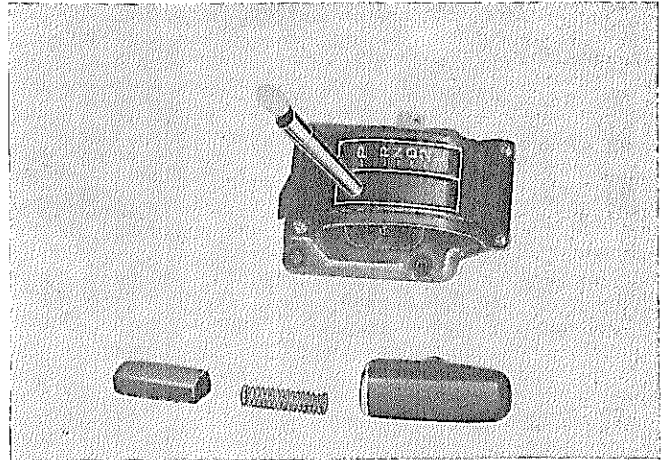


図8-19 インジケータ ハウジング取りはずし

C9971

- ③ カラー
- ④ シフト レバー ブーツ

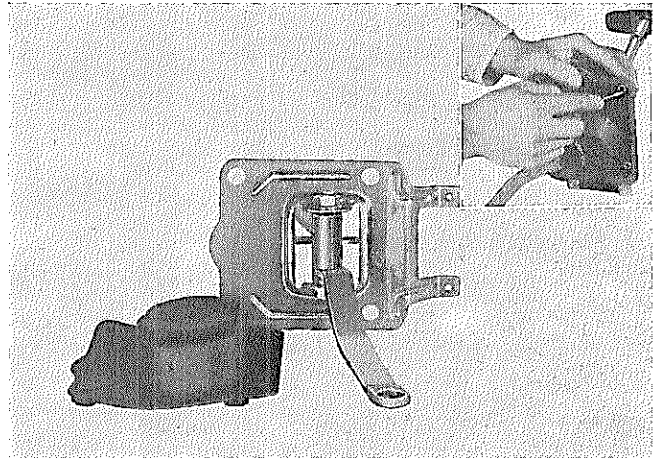


図8-20 ブーツ取りはずし

C9972 C9973

- ⑤ ナット
- ⑥ コントロール シャフト
- ⑦ ブッシュ
- ⑧ シフト レバー サブ ASSY

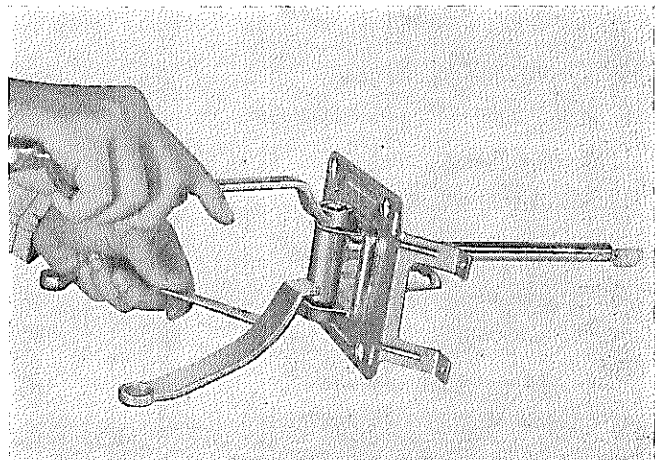


図8-21 コントロール シャフト取りはずし

C9974

(2) シフト レバーより次の部品を取りはずす。

- ⑨ スロットテツド ピンを打ち抜く。
- ⑩ デイテント ロツド
- ⑪ コンプレツシヨ スプリング

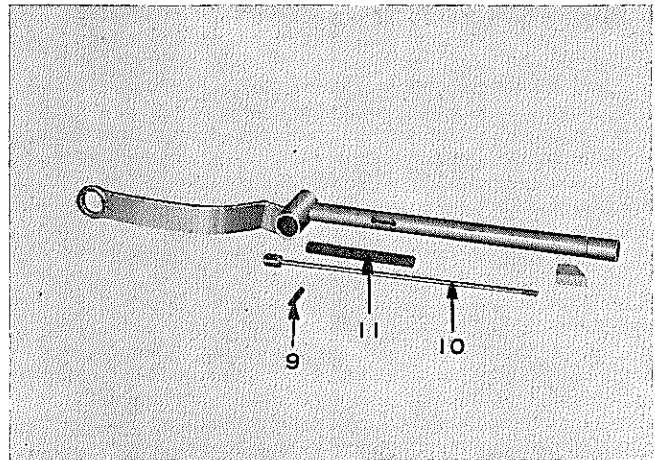


図8-22 分 解

C9975

点 検

(1) コントロール ロツドとマニュアルバルブ レバー シャフトとの連結部のブシユの摩耗, その他連結個所のブシユ, シャフト類の摩耗, 変形を点検する。

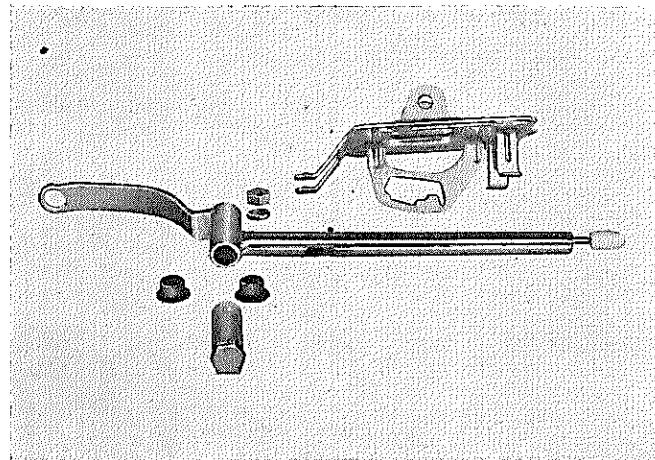


図8-23 点 検

C9976

組み付け

(1) シフト レバーに次の部品を取り付ける。

- ① コンプレツシヨ スプリング
- ② デイテント ロツド
- ③ スロットテツド ピン

(2) シフト レバー プレートに次の部品を取り付ける。

- ④ ブシユ
- ⑤ シフト レバー サブ ASSY
- ⑥ コントロール シャフト
- ⑦ ロツク ナツト

—————〈注意〉—————

しゆう動部には MP グリースを塗布する。

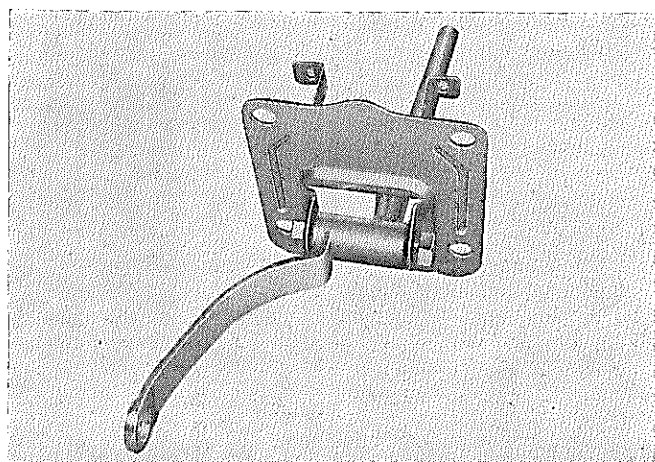


図8-24 組み付け

C9977

- (3) デイテント ロッドのシフト レバー ノツブ スリーブをねじ込んで スロットテツド ピンの動きしろを調整する。

参考調整値 約185mm

〈注意〉

N→R, R→P, 2→Lにシフトするとき、引つ掛かりがなくスムーズにシフトできること。(S52.7以降D→2も点検すること)

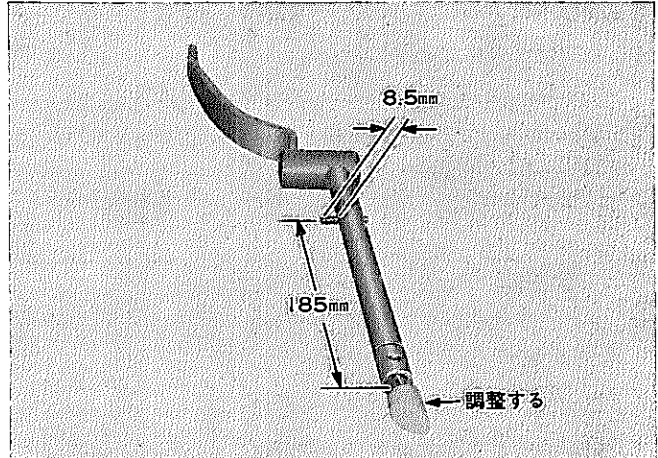


図8-25 スロットテツド ピン動きしろ

H0278

- (4) 次の部品を取り付ける。

- ⑧ シフト レバー ブーツ
- ⑨ カラー

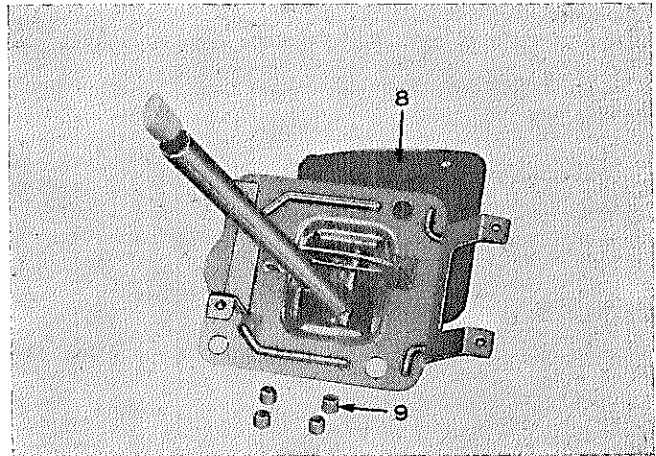


図8-26 ブーツ取り付け

C9979

- ⑩ ポジション インジケータ
- ⑪ シフト レバー ノツブ

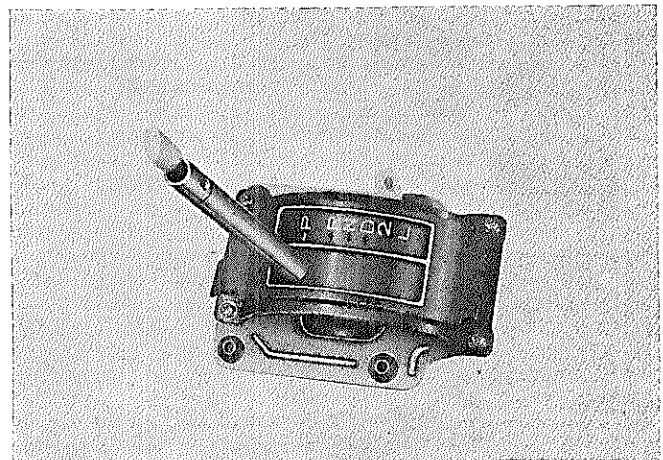


図8-27 シフト レバー組み付け

C9980

取り付け

- (1) 取りはずし作業の逆に行なう。

〈注意〉

組み付け後シフト レバーの動きを点検し、節度感があり各レンジでポジション インジケータが正しく指示されていることを点検する。

調 整

- (1) コントロール ロッドと マニュアル バルブ レバー シャフトとの連結部のブシユの摩耗、その他連結個所のブシユ、シャフト類の摩耗、変形を点検する。
- (2) コントロール シャフトとコントロール ロッドをつないでいるコネクティング ロッド スイベルのナットをゆるめ、マニュアル バルブ レバーを車両方向へ止まるまでいっぱい押す。  
そこから3段階もどした位置、すなわちN レンジ位置までもどす。
- (3) シフト レバーをN レンジに入れ、軽く R レンジ側に押してスイベルのナットを締め付ける。
- (4) 調整後、シフト レバーの動きを点検し、節度感があり各レンジでポジション インジケータが正しく指示され、D レンジで前進し、R レンジで後退すること。

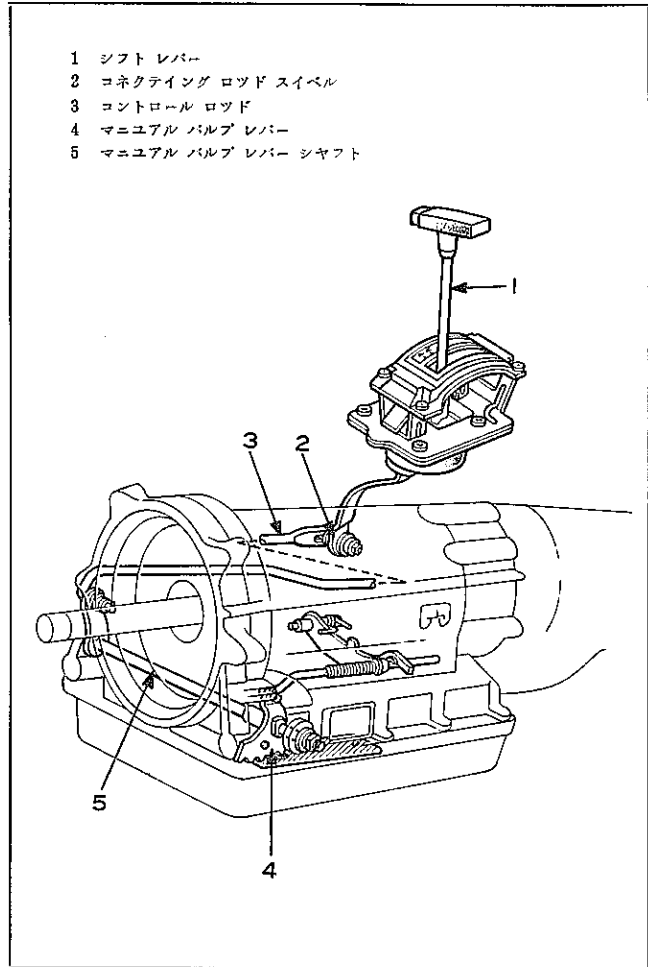


図8-28 シフト レバー調整

M1404

コラム シフト レバー

SST, 工具, 計器

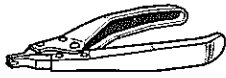
S S T		09905-00010	エキスパンダ, スナップ リング No.1
-------------	---	-------------	-----------------------

図8-29

取りはずし

- (1) N レンジにシフトする。
- (2) エンジン側より次の部品を取りはずす。
  - ① ロック ナット
  - ② シフト レバー リテーナ

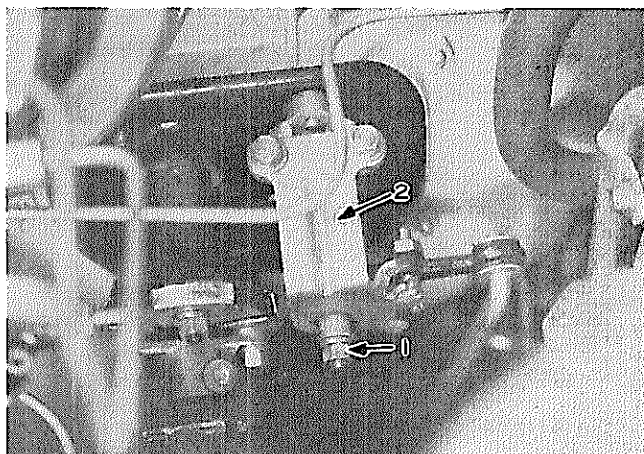


図8-30 リテーナ取りはずし

C9981

- ③ ブシュ
- ④ ロック ナットを取りレバー ロック ピンを打ち抜く。
- ⑤ コントロール シャフト レバーを取りはずし, コネクティング ロッドを切り離す。
- ⑥ スプリング & ブシュ
- ⑦ ロー コントロール シャフト ブラケット  
(ボルトは室内より取りはずす。)

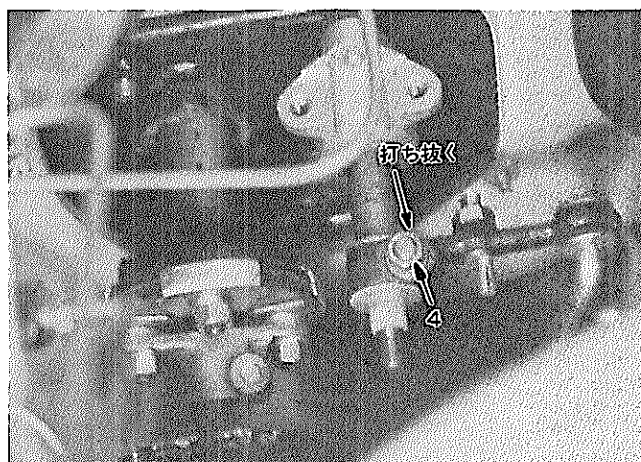


図8-31 コントロール シャフト レバー取りはずし

C9982

(3) 室内側より次の部品を取りはずす。

- ⑧ ステアリング ホイール & ホーン ボタン
- ⑨ コラム カバー  
(ステアリングの項参照)
- ⑩ アツパ シャフト コントロール シート リテーナ
- ⑪ シフト レバー  
ピンを両側より押し込み抜き出す。

〈注意〉

ピンおよびスプリングを紛失しないようにする。

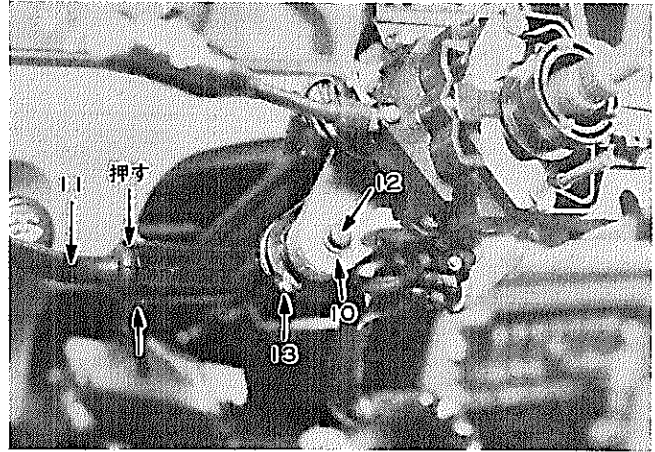


図8-32 シフト レバー取りはずし

C9983

- ⑫ アツパ シャフト
- ⑬ ドライブ プーリ

(4) コントロール シャフトを抜き出す。

点 検

(1) 分解した各部品を点検し、摩耗、損傷など不具合のある場合は修正または交換する。

- ① シフト レバー先端部、シフト レバー ハウジング カバー、シフト レバー ハウジングのレバー ピンかん入部の摩耗、損傷
- ② コントロール シャフト ブラケット アツパ シャフト、シフト レバー ピン、E リングの摩耗、損傷
- ③ コントロール シャフト レバーピンかん入部の摩耗、損傷
- ④ レバー ロック ピンの摩耗、損傷
- ⑤ コントロール シャフトの曲がり
- ⑥ ローワー コントロール シャフト ブラケット ブシユ、シャフト ブラケット ブシユの摩耗

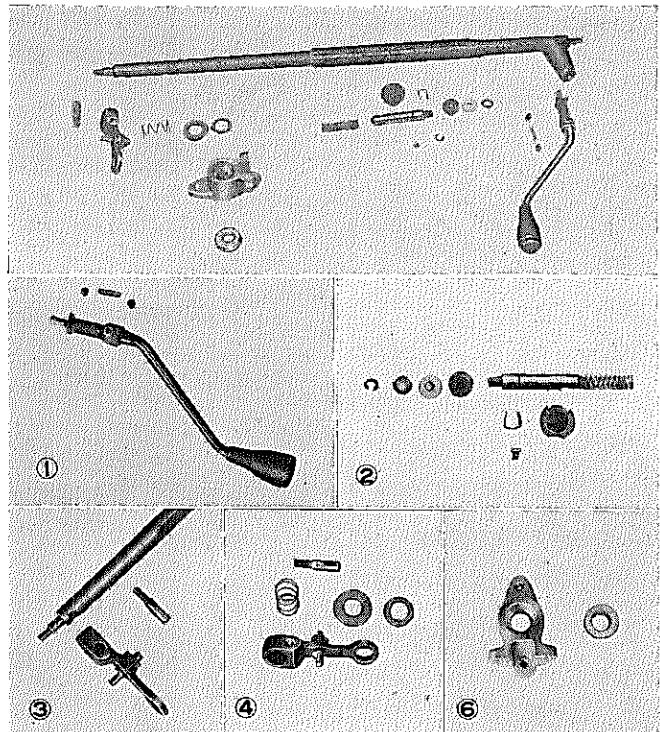


図8-33 点 検

C9984~C9989

取り付け

(1) 室内側より次の部品を取り付ける。

- ① コントロール シヤフト
- ② アツパ シヤフトとドライブ プーリ
- ③ シフト レバー  
ピンを両側より押し込み、コントロール シヤフトに取り付ける。
- ④ アツパ シヤフト コントロール シート リテーナ
- ⑤ インジケータ ドライブ コードの調整  
(P 8-24参照)
- ⑥ コラム カバー
- ⑦ ステアリング ホイール & ホーン ボタン

(2) エンジン側より次の部品を取り付ける。

- ⑧ ローラ コントロール シヤフト ブラケット  
(締め付けは室内より)
- ⑨ プシュ & スプリング
- ⑩ コントロール シヤフト レバー
- ⑪ レバー ロック ピンを打ち込み  
ロック ナットを取り付ける。
- ⑫ コネクティング ロッド
- ⑬ プシュ
- ⑭ シフト レバー リテーナ
- ⑮ ロック ナット

(3) シフト レバーの調整を行ない、スイベルのナットを締め付ける。



図8-34 シフトレバー取り付け

C9983

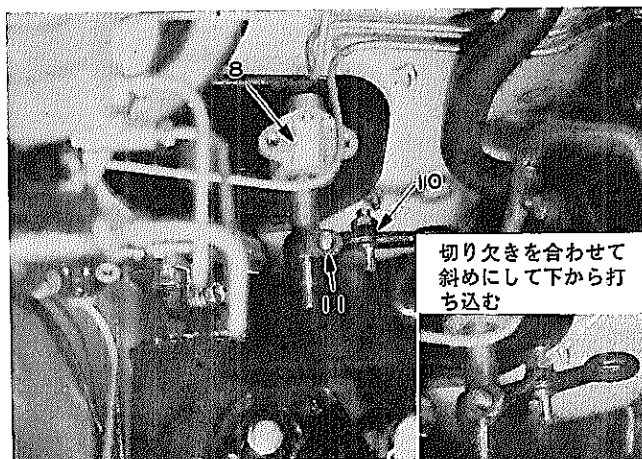


図8-35 レバー取り付け

C9990 C9991

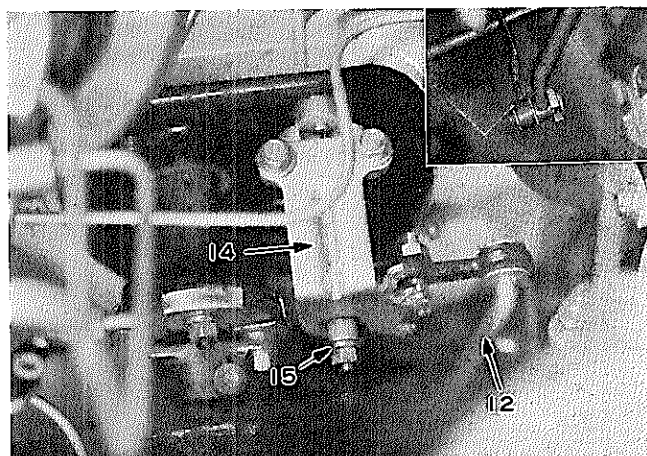


図8-36 リテーナ取り付け

C9992 C9981

インジケータ関係取りはずし

- (1) バツテリの接続をはずす。
- (2) N レンジにシフトする。
- (3) 次の部品を取りはずす。
  - ① ホーン ボタン & ステアリング  
グホイール
  - ② コラム カバー  
(ステアリングの項参照)

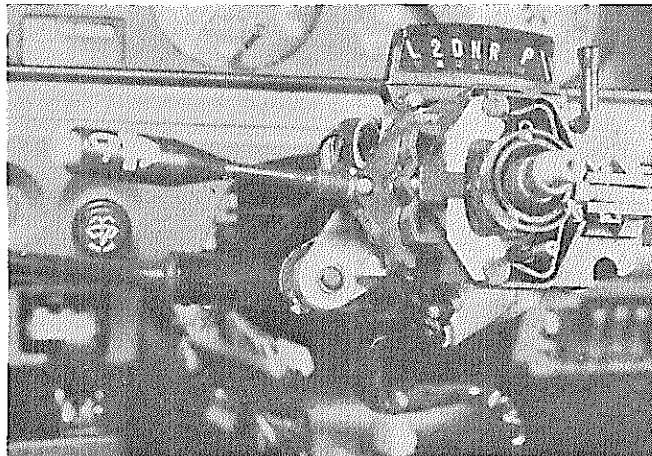


図8-37 ターン シグナル スイッチ取りはずし

C9993

- ③ ターン シグナル スイッチ
- ④ インジケータ ドライブ コード
- ⑤ アツパ シャフト コントロール  
シート リテーナ
- ⑥ メーン シャフト リテーナ
- ⑦ スナツプ リング  
SST [09905-00010]
- ⑧ イグニション スイッチ コネク  
タの結合切り離し
- ⑨ ステアリング コラム アツパ  
ブラケット
- ⑩ インジケータ ポジション ハウ  
ジング

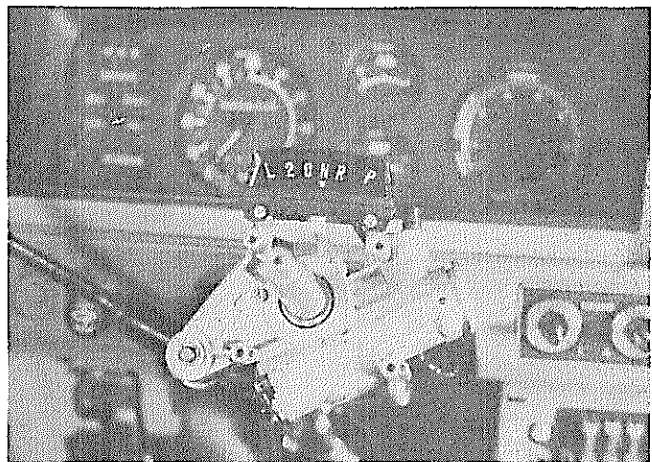


図8-38 アツパ ブラケット取りはずし

C9994

- (4) アツパ ブラケットより次の部品  
を取りはずす。

- ⑪ ドライブ コード
- ⑫ スナツプ リング  
SST [09905-00010]
- ⑬ コントロール ポジション イン  
ジケータ

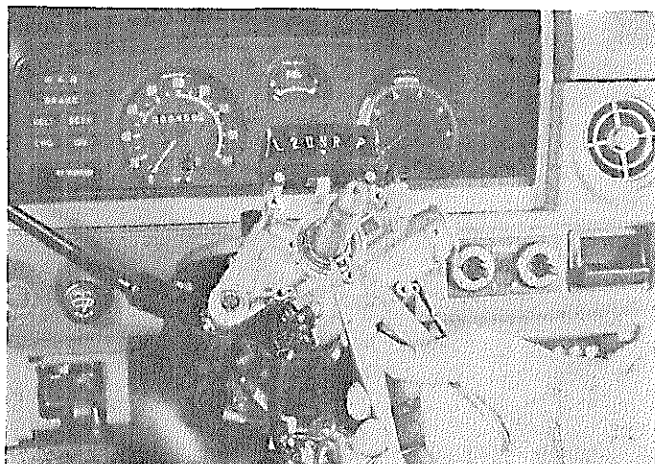


図8-39 スナツプ リング取りはずし

C9995

点 検

(1) 取りはずした部品を点検し不具合のある場合は交換する。

取り付け

(1) アツパ ブラケットに次の部品を取り付ける。

- ① コントロール ポジション インジケータ
- ② スナツプ リング  
SST〔09905-00010〕

(2) 次の部品を取り付ける。

- ③ ドライブ コードおよびステア  
リング アツパ ブラケットを取  
り付ける。
- ④ インジケータ ポジション ハウ  
ジング
- ⑤ イグニション スイッチ ハーネ  
ス
- ⑥ スナツプ リング  
SST〔09905-00010〕
- ⑦ メーン シャフト リテーナ

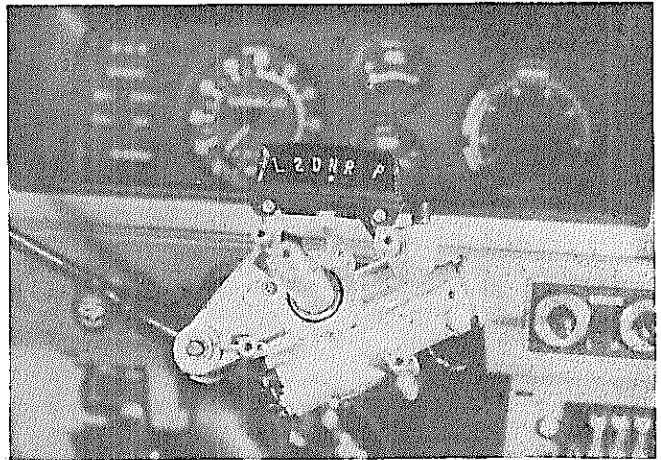


図8-40 アツパ ブラケット取り付け

C9994

- ⑧ アツパ シャフト コントロール  
シート リテーナ
- ⑨ ターン シグナル スイッチ

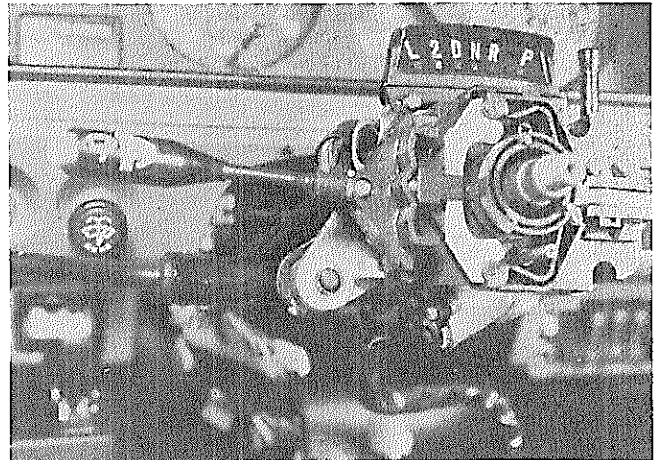


図8-41 ターン シグナル スイッチ取り付け

C9993

- (3) トランスミツシヨソのマニユアル  
バルブ レバー、コントロール シ  
ヤフト レバーおよびシフト レバ  
ーがN レンジであることを 確認  
し、コントロール ポジシヨソ イ  
ンジケーターをNの位置になるよ  
うに調整する。
- (4) 調整後、確実に作動するか点検し、  
次の部品を取り付ける。
- ⑩ ステアリング コラム カバー
  - ⑪ ステアリング ホイール & ホー  
ン ボタン
- (ステアリングの項参照)

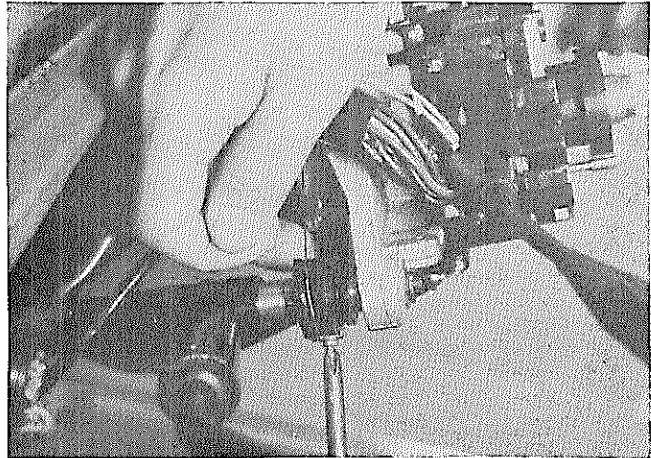


図8-42 調 整

C9996

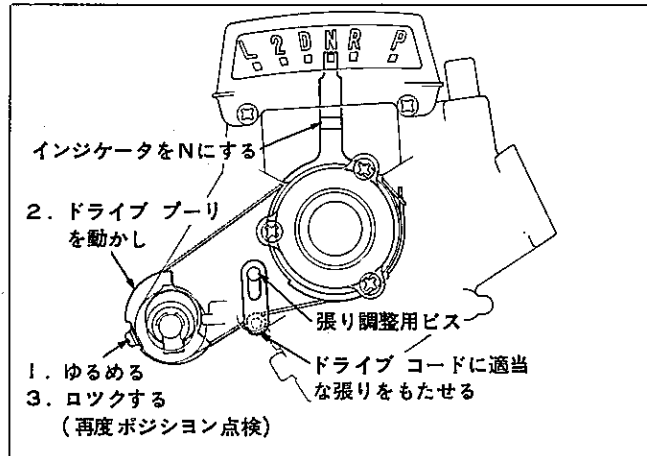


図8-43 インジケーター ドライブ コードの調整

M1478

調 整

シフト レバーを点検し、不具合のある場合は次の要領で調整する。

- (1) コントロール シャフトから マニュアル バルブ レバー シャフトまでの各連結部のブシユ、シャフト類の摩耗、変形を点検する。
- (2) コネクティング ロッド スイベルのロツク ナツトをゆるめて、シフト レバーを動かし、ポジション インジケータの指示がシフト レバーの動きと同一であること。またコントロール シャフト レバーをニュートラルの位置にしたときポジション インジケータの位置が正しく N レンジになっていること。
- (3) トランスミツションのマニュアル バルブ レバーを N レンジに入れ、このときコントロール ポジション インジケータの位置が正しく N レンジになるようにコントロール ファースト ロッドの長さを調整してスイベルのロツク ナツトを締め付ける。
- (4) 調整後、シフト レバーの動きを点検し、節度感があり各レンジでポジション インジケータが正しく指示され、D レンジで前進し、R レンジで後退すること。

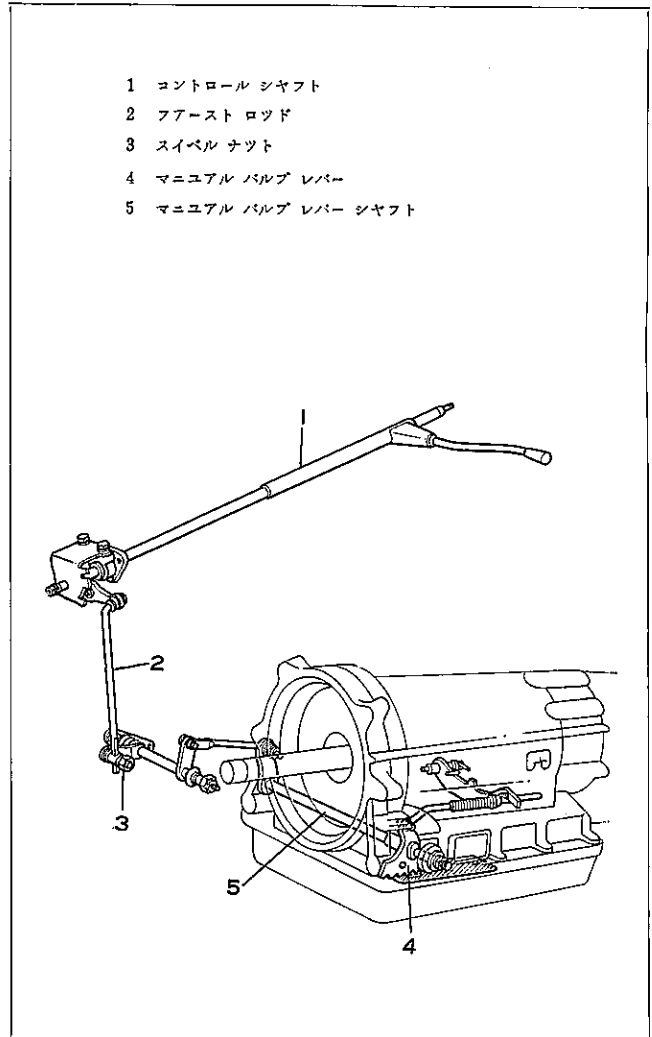


図8-44 コラム シフト レバー

M1479

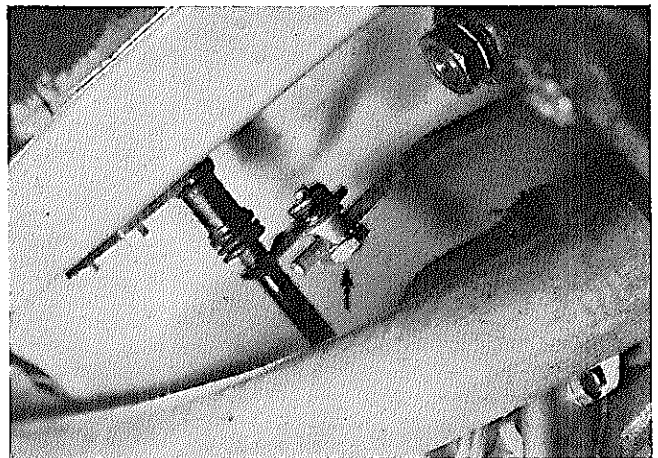
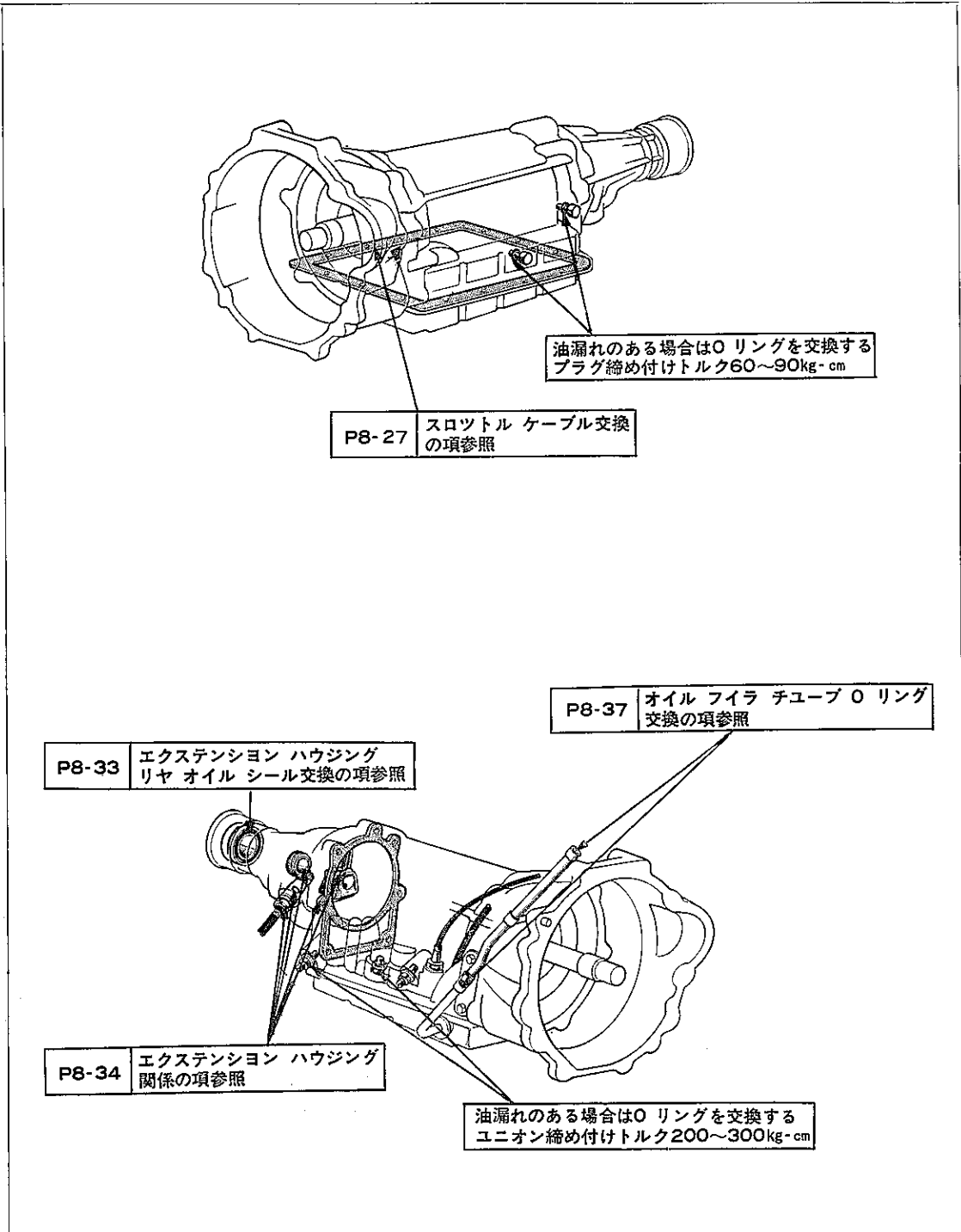


図8-45 スイベル ナツト

H0183

## トランスミッション本体

下図の個所について作業を行ない作業要領については図中の指示によること。



S4970 S4969

## 車上整備

〈注意〉

- 1 分解前に外部に付着している砂、泥などを洗浄し、分解、組み付け中、内部にはいらないようにする。
- 2 オイル漏れなどは、分解前に、必ず点検しておく
- 3 作業に当たつてはよくその内容を検討し、必要以上に部品を取りはずさないよう注意する。
- 4 各部品、分解中、洗浄し、整理しておく。

### スロットル ケーブルの交換

- (1) キャブレタよりスロットル ケーブルを切り離す。
- (2) 各クランプからスロットル ケーブルを取りはずす。

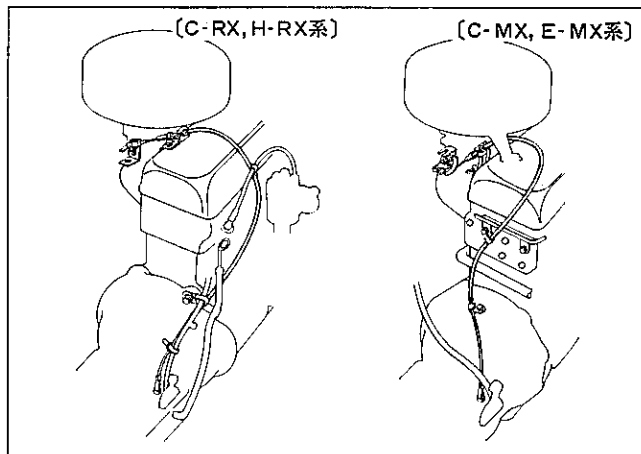


図8-46 スロットル ケーブル取りはずし

M1405 M1406

- (3) 車両をジャッキ アップし、フルードを抜く。
- (4) オイル パンを取りはずす。

〈注意〉

- 1 オイル パン内のフルードが完全に抜けていないときがあるので注意すること。
- 2 オイル フィラ チューブを変形させたり、曲げたりしないように注意すること。
- 3 オイル フィラ チューブ No.1 の O リングを傷つけないように注意する。

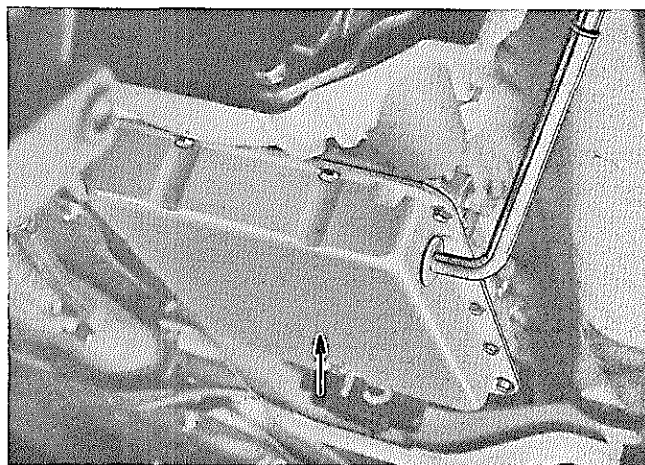


図8-47 オイル パン取りはずし

H0184

- (5) オイル ストレーナ 取り付け ボルト 5 mm (5本) 矢印を取りはずし、オイル ストレーナを取りはずす。

~~~~~<参考>~~~~~

フルードが漏れるので、受皿などでフルードを受けておくこと。

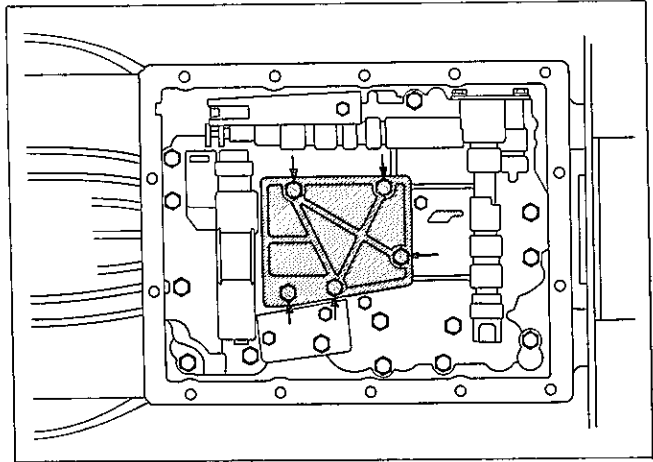


図8-48 オイル ストレーナ取りはずし

M1480

- (6) バルブ ボデー 取り付け ボルト 6 mm (17本) を取りはずす。

~~~~~<参考>~~~~~

取り付けボルトは長さが5種類あるので、整理しておくこと。

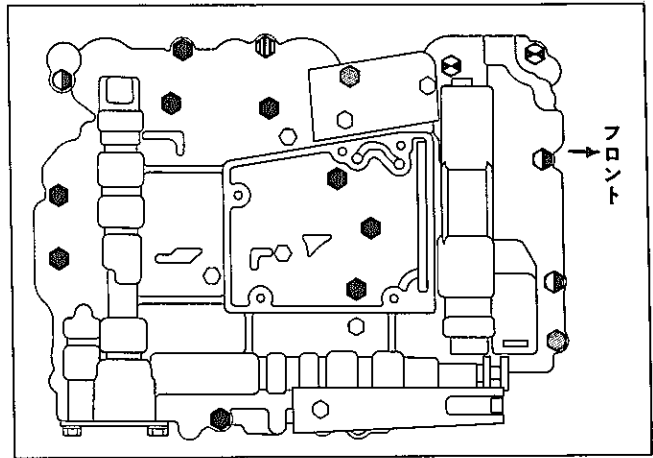


図8-49 バルブ ボデー取りはずし

S2232

- (7) バルブ ボデーをゆつくりおろし、スロツトル カム がいつばい開いた状態でカムの下側にドライバなどのストツバを差し込む。

- (8) 再びバルブ ボデーを持ち上げスロツトル カムからスロツトル ワイヤのニツプルをはずし、バルブ ボデーを取りはずす。

~~~~~<注意>~~~~~

バルブ ボデーをはずすと、No.1 アクチュエータ ピストン (フロント側) が飛び出すときがあるので注意すること。

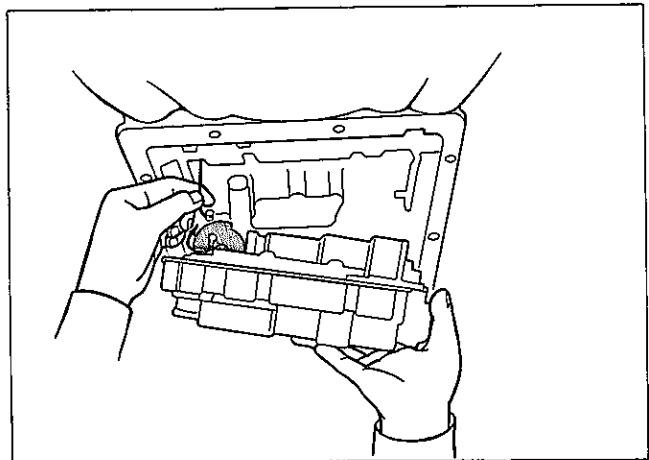


図8-50 スロツトル ケーブルのニツプル取りはずし

M1481

- (9) スロットル ケーブルのアダプタ部を10mmのボツクスドライバなどで押え、スロットル ケーブルをケースから抜き取る。

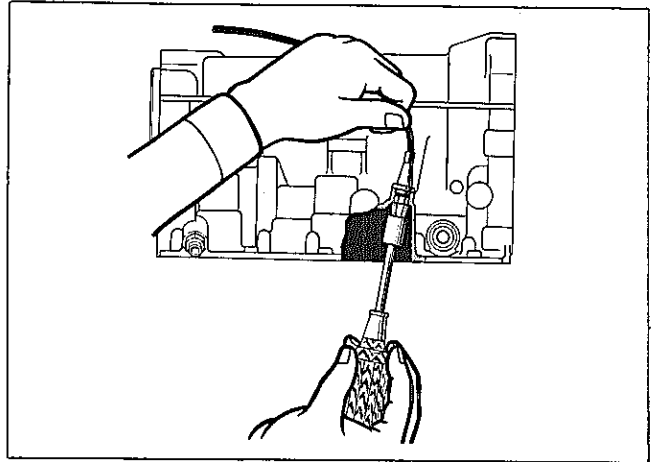


図8-51 スロットル ケーブル抜き取り

S2227

取り付け

- (1) スロットル ケーブルをケースにそう入する。  
 (2) バルブ ボデーのスロットル カムをいつばいに開いた状態でカムの下側にドライバなどのストツバを差し込む。

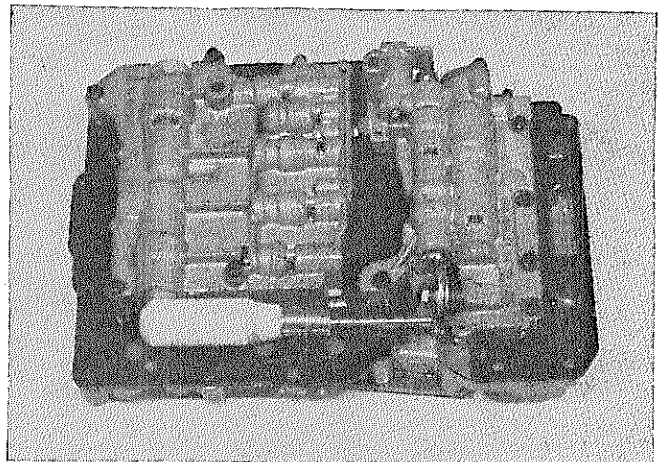


図8-52 カム ストツバ (ドライバ) 取り付け

C4760

- (3) スロットル ケーブルのニツプル部をスロットル カムに取り付ける。

~~~~~〈注意〉~~~~~

アキユームレータ ピストン No.1 が飛び出す場合は図8-53のようにストツバを取り付けておく。

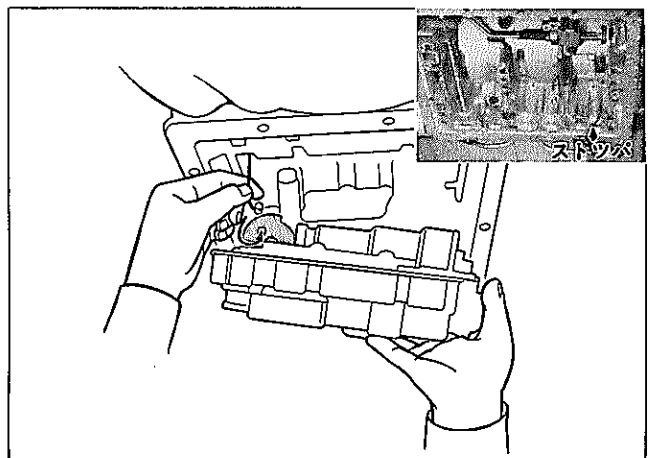


図8-53 スロットル ケーブル取り付け

M1481 C4762

- (4) ドライバを取りはずしバルブ  
ボデーの取り付けボルトを、仮  
り締めする。

〈注意〉

ボルト長さ 5 種類を図8-54の位置に取り  
付ける。

● は長さ40mm×2本    ● は長さ25mm×2本

● は長さ35mm×3本    ● は長さ20mm×1本

● は長さ30mm×9本    注 ボルト長さは首下長  
さを示す。

〈注意〉

仮り締め後アキュムレータ ピストン  
ストツバを取りはずす。

- (5) バルブ ボデー を平均に少しず  
つ締め付ける。

$T = 80 \sim 120 \text{ kg-cm}$

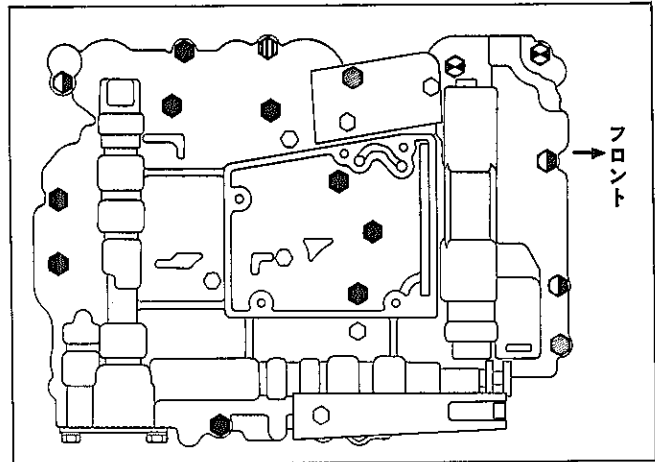


図8-54 バルブ ボデー取り付けボルト

S2232

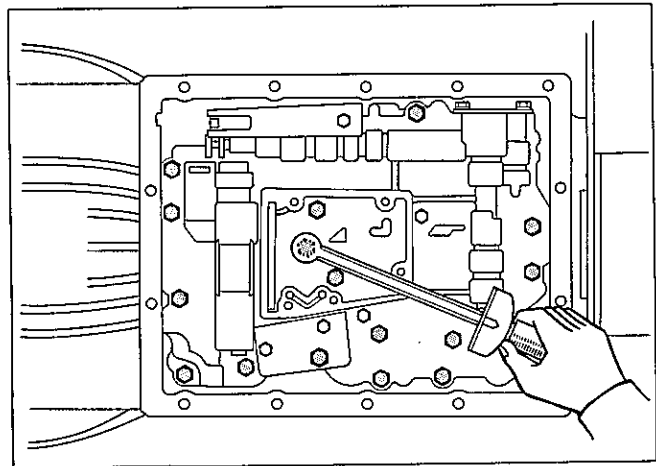


図8-55 バルブ ボデー取り付け

M1482

- (6) オイル ストレーナを取り付け  
る。

$T = 50 \sim 60 \text{ kg-cm}$

〈注意〉

オイル ストレーナは必ず洗浄すること。

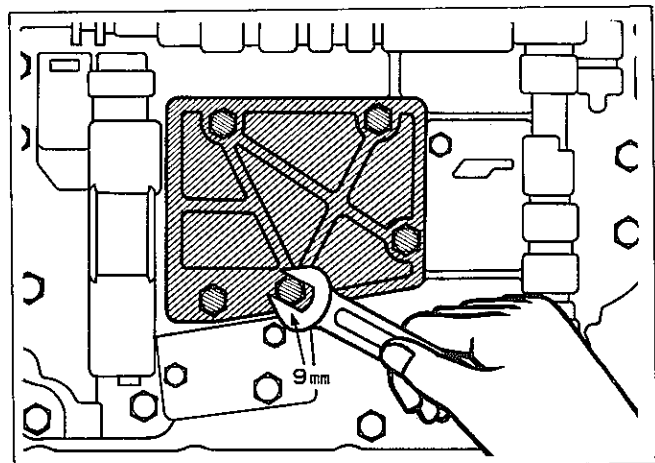


図8-56 オイル ストレーナ取り付け

M1483

- (7) オイル パンのオイル ストレーナの真下付近にマグネットを取り付ける。

~~~~~**〈注意〉**~~~~~

~~~~~マグネットは必ず洗浄すること。~~~~~

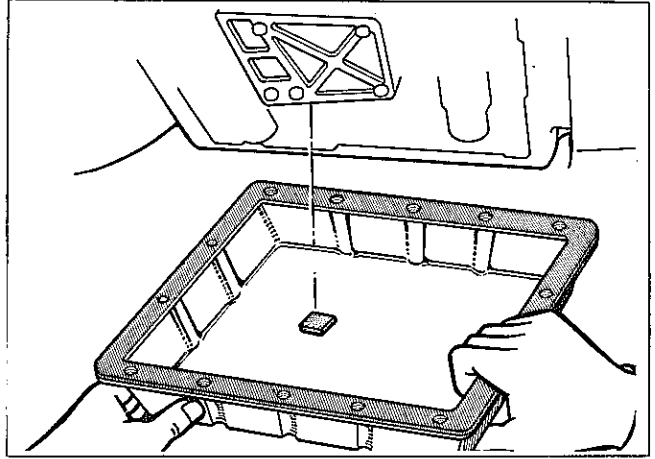


図8-57 マグネット取り付け

M1484

- (8) オイル パン ガasketを介して、オイル パンを取り付ける。

$T = 40 \sim 50 \text{ kg-cm}$

ドレーン プラグ締め付けトルク

$T = 150 \sim 200 \text{ kg-cm}$

- (9) 各クランプにスロットル ケーブルを取り付ける。(図8-46参照)

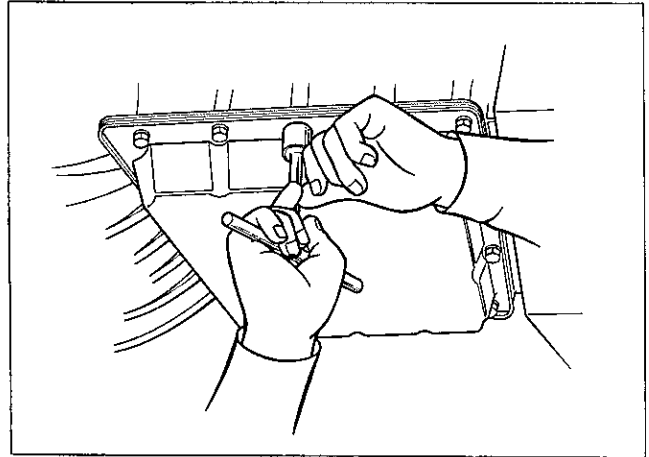


図8-58 オイル パン取り付け

M1485

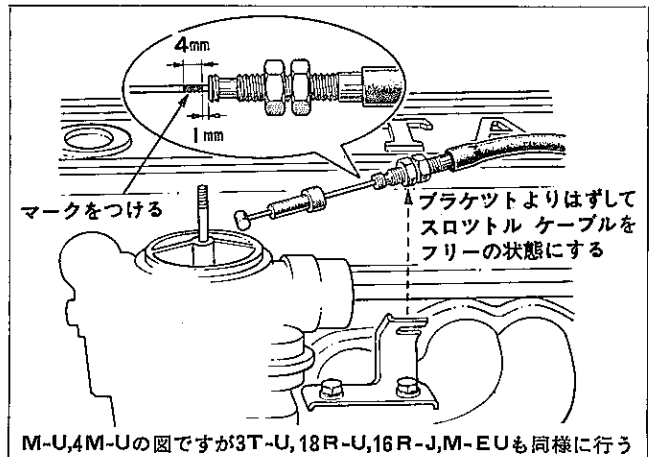
- (10) スロットル ケーブルにストツパ マークをつける。

~~~~~**〈注意〉**~~~~~

~~~~~補給用スロットル ケーブルには、ストツパ マークがつけられてない。~~~~~

~~~~~**〈要点〉**~~~~~

~~~~~ブーツをはずしアウト ケーブルをフリーの状態にし端面より1 mmの所から4 mm幅のマークをつける。~~~~~



M-U,4M-Uの図ですが3T-U, 18R-U,16R-J,M-EUも同様に行う

図8-59 ストツパ マークの位置

M2111

無断複製禁止

- (11) キヤブレタにスロットル ケーブルを取り付ける。

<C-RX, H-RX系>

キヤブレタ ファースト スロットル レバーにスロットル ケーブルを取り付け、ピンをそう入し、クリップで止める。

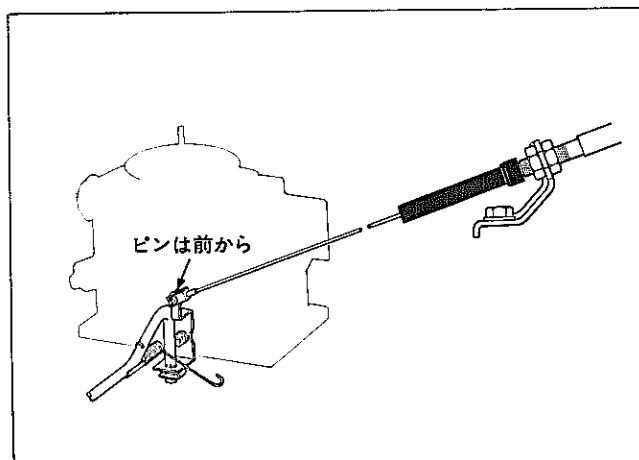


図8-60 スロットル ケーブル取り付け (C-RX, H-RX系) M1486

<C-MX, E-MX系>

キヤブレタ ファースト スロットル レバー ニツプル穴に、スロットル ケーブル 先端のニツプルを確実にそう入する。

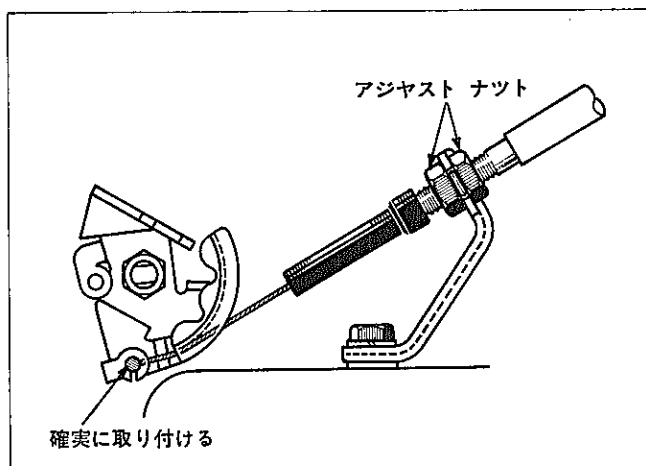


図8-61 スロットル ケーブル取り付け (C-MX, E-MX系) M1407

- (12) スロットル ケーブル ブラケットに、スロットル ケーブルを取り付け、アジャスト ナット を仮り締めする。
- (13) キヤツスル オート フルード スペシャルを注入する。  
フルード量 約4ℓ
- (14) 調整の項 (P8-5) を参照してスロットル ケーブルを調整し、アジャスト ナットを締め付ける。

エクステンシヨ ハウジ ング リヤ オイル シール交換

SST, 計器, 工具

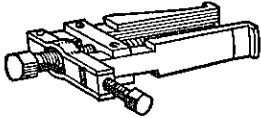
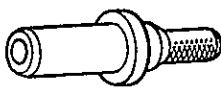
|   |   |             |                     |
|---|---|-------------|---------------------|
| S |  | 09308-10010 | ブラー, オイル シール        |
| T |  | 09325-20010 | プラグ, トランスミツシヨ ン オイル |

図8-62

取りはずし

- (1) 車両をジャツキ アツプし, フルードを抜く。
- (2) プロペラ シャフトを取りはずし, リヤ オイル シールを SST〔09308-10010〕を使用して取りはずす。

〈注意〉

リヤ オイル シールを取りはずす前に必ずエクステンシヨ ン ハウジ ングの汚れを除去すること。

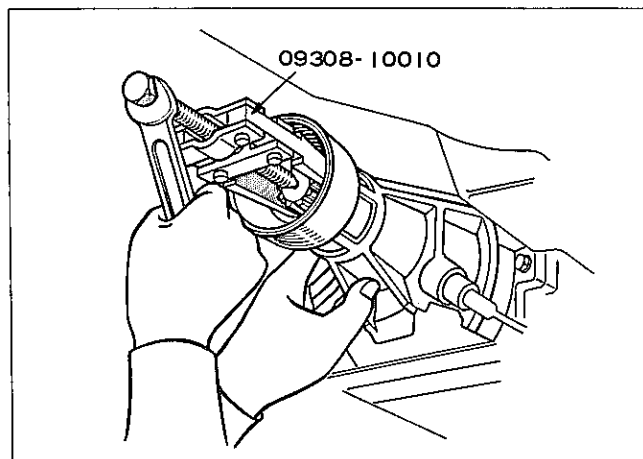


図8-63 オイル シール取りはずし

M1487

取り付け

- (1) SST〔09325-20010〕を使用して, オイル シールを打ち込む。

〈注意〉

オイル シールのリップにMP グリースを塗布する。

- (2) 後の作業は取りはずし作業の逆に行なう。

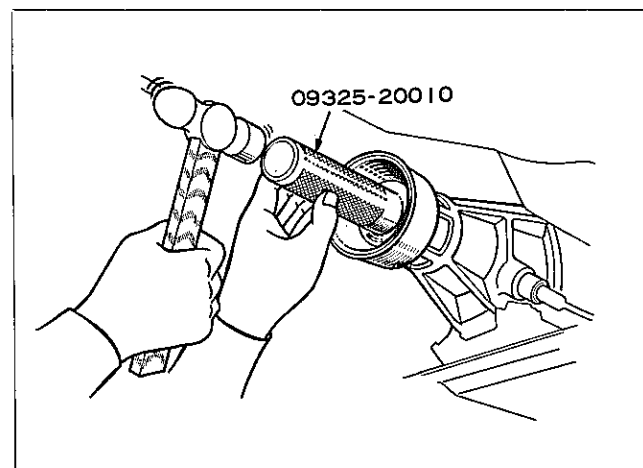


図8-64 オイル シール取り付け

M1488

エクステンシヨン ハウジング関係

SST, 工具, 計器

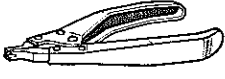
|             |   |             |                  |
|-------------|---|-------------|------------------|
| S<br>S<br>T |  | 09905-00010 | エキスパンダ, スナップ リング |
|-------------|---|-------------|------------------|

図8-65

取りはずし

- (1) 車両をジャッキ アップしフルードを抜く。
- (2) プロペラ シャフトを取りはずし, トランスミツシヨン オイル パン下に, 木片を介して, ジャッキでささえる。
- (3) リヤ サポート, O リング スピードメータ ケーブルを取りはずす。
- (4) スピードメータ ドリブン ギヤを取りはずす。

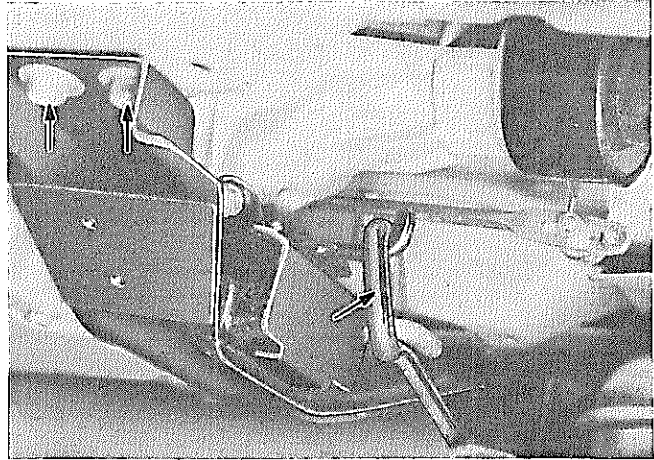


図8-66 リヤ サポート取りはずし (C-RXのみ)

H0185

- (5) エクステンシヨン ハウジング取り付けボルトをはずし, エクステンシヨン ハウジングを取りはずす。

〈注意〉

アウトプット シャフトおよびガバナに当てないように注意する。

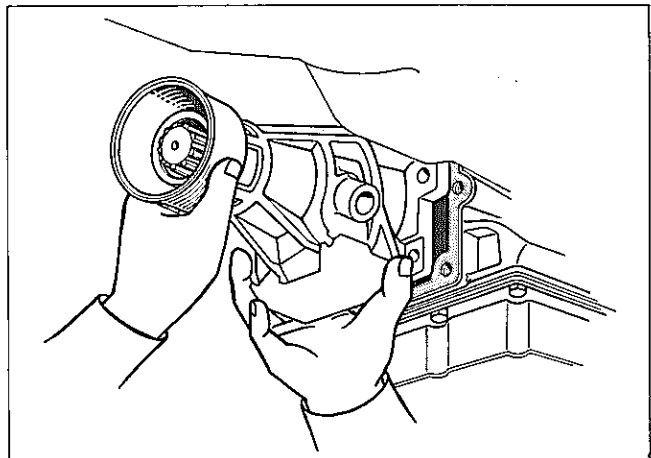


図8-67 エクステンシヨン ハウジング取りはずし

M1489

- (6) アウトプット シャフトから SST を使用してスナツプ リングを取りはずす。

SST (09905-00010)

- (7) スピードメータ ドライブ ギヤ, ウッドラフ キー, スナツプ リングを取りはずす。

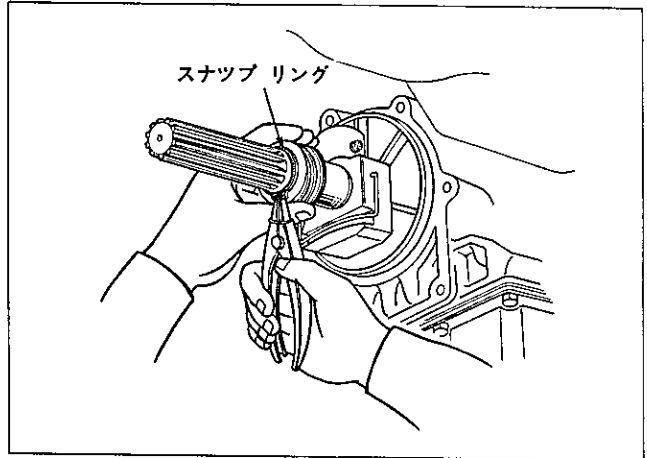


図8-68 スナツプ リング取りはずし

M1490

- (8) ⊖ドライバを用いて, ガバナ リテーニング リングを軽く持ち上げ, アウトプット シャフトからガバナ ASSY を取りはずす。

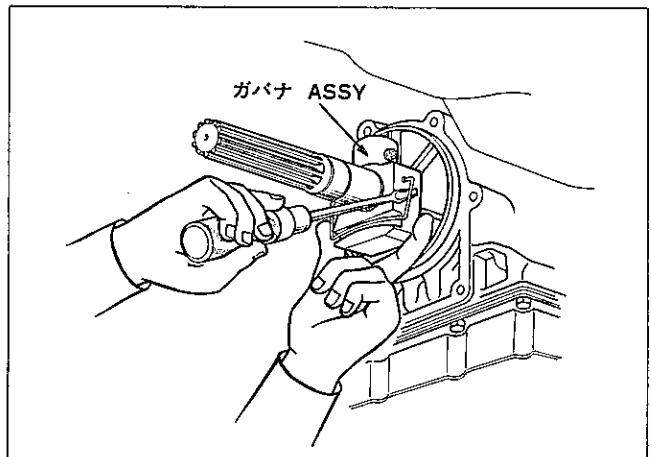


図8-69 ガバナ ASSY 取りはずし

M1491

分 解

- (1) 次の部品を取りはずす。

- ① E リング
- ② ガバナ ウェイト
- ③ ガバナ ウェイト シャフト
- ④ スプリング
- ⑤ ガバナ バルブ

〈注意〉

矢印の方向に取りはずす。

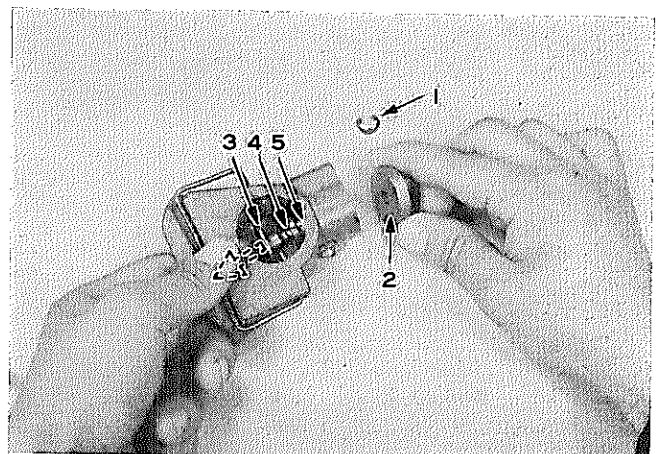


図8-70 ガバナ バルブ分解

C2267

点 検

(1) 各部品を洗浄する。

- ① ガバナ バルブの損傷、摩耗の有無を調べ、さらにボデーの中で回転させながら円滑にしゆう動することを確認する。
- ② ガバナ ボデー
  - a バルブしゆう動面の損傷、摩耗
  - b オイル穴、油路の詰まり
- ③ ガバナ バルブ シャフト先端のリテーニング リングみぞおよびリテーニング リングの損傷

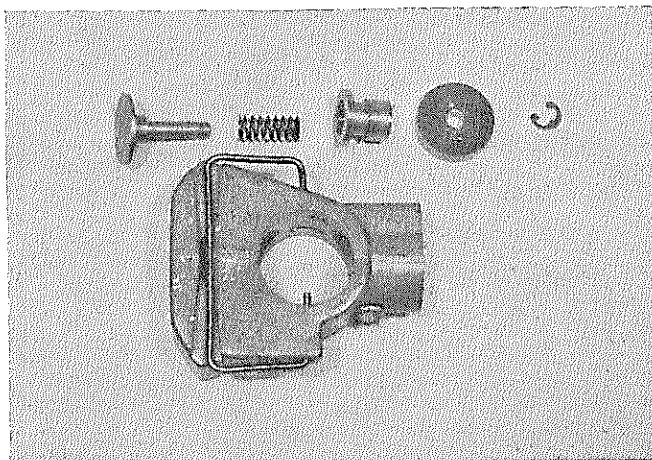


図8-71 ガバナ バルブ点検

C2268

組み付け

(1) 分解作業の逆に行なう。

取り付け

- (1) アウトプット シャフトのノック穴と、ガバナ リテーニング リングが合うように、ガバナ ASSY を取り付ける。

~~~~~〈注意〉~~~~~

P レンジにシフトしてガバナ ASSY を入れるとよい。

- (2) スナツプ リング、ウツドラフ キー、スピードメータ ドライブ ギヤを取り付け、スナツプ リングでロックする。
- (3) エクステンション ハウジングをガスケットを介して取り付ける。

~~~~~〈注意〉~~~~~

取り付けボルトは、下側2本が短い。

~~~~~ $T=270\sim 420\text{kg}\cdot\text{cm}$ ~~~~~

- (4) 後の作業は、取りはずし作業の逆に行なう。

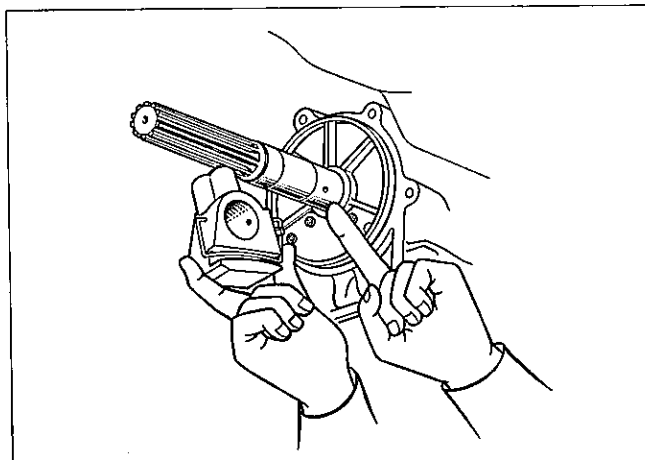


図8-72 ガバナ ASSY 取り付け

M1492

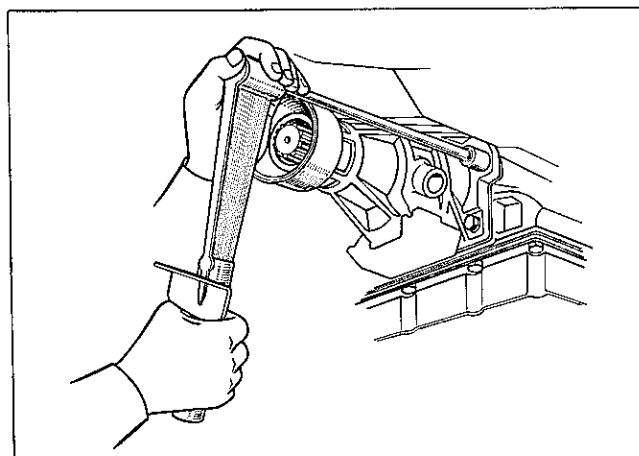


図8-73 エクステンション ハウジング取り付け

M1493

オイル フィラ チューブ

○ リング交換

取りはずし

- (1) フィラ チューブ 共締めボルトを  
取りはずす。

C-RX, H-RX系——トランス  
ミッション取り  
付けボルト

C-MX, E-MX系——トランス  
ミッション ハ  
ウジング部

- (2) クランプからワイヤ ハーネスを  
はずす。(C-RX, H-RX系の  
み)
- (3) オイル フィラ チューブを引き出  
す。

~~~~~〈注意〉~~~~~

フロア シフトとコラム シフトではフィ  
ラ チューブの取り付け位置が左右異な  
る。(C-MX, E-MX系のみ)

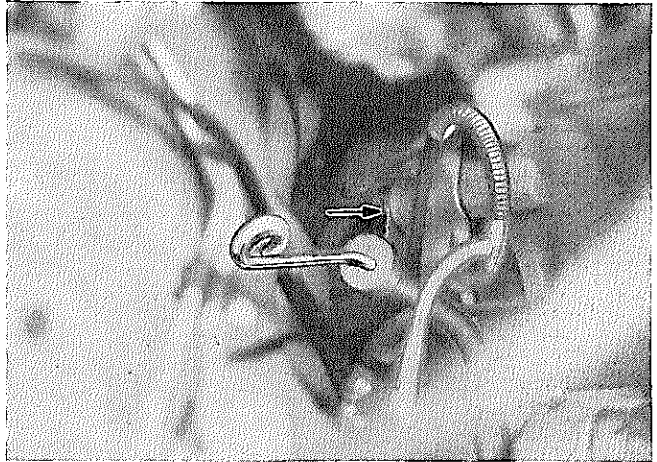


図8-74 オイル フィラ チューブ取りはずし (C-RX, H-RX系) H0186

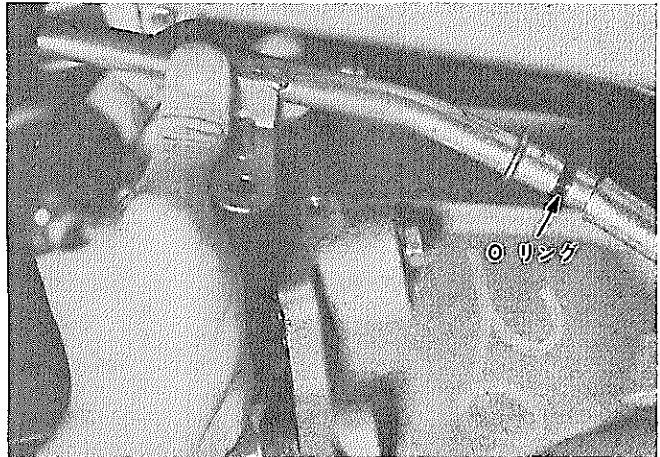


図8-75 オイル フィラ チューブ取りはずし (C-MX系 E-MX系) H0193

取り付け

- (1) ○ リングを交換し、オイル フィ  
ラ チューブを取り付ける。

共締めボルト締め付けトルク

C-RX, H-RX系

T=500~800kg-cm

C-MX, E-MX系

T=40~70kg-cm

(フロア シフト右側)

T=100~160kg-cm

(コラム シフト左側)

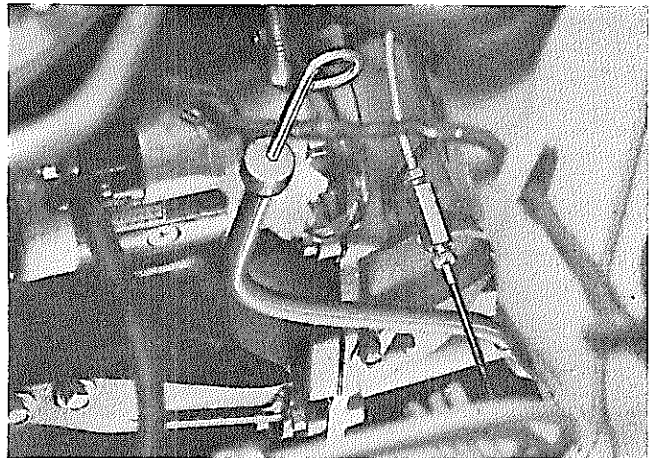


図8-76 オイル フィラ チューブ取り付け H0187

トランスミッション脱着

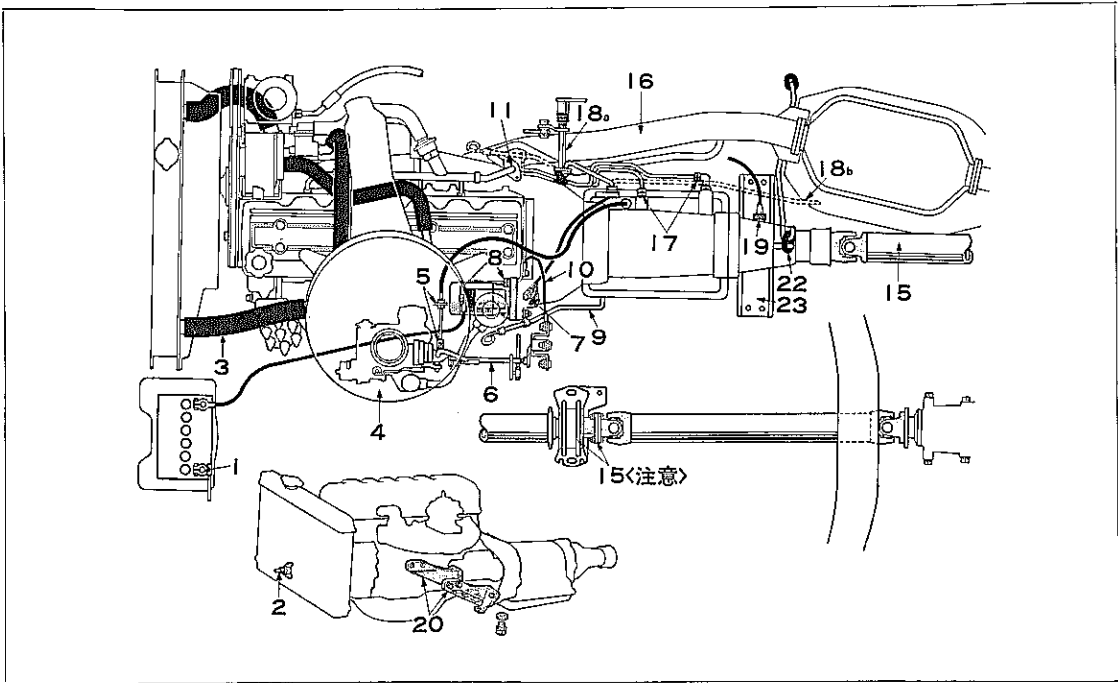


図8-78 トランスミッション取りはずし

M2077

SST, 工具, 計器

|    |          |             |                         |
|----|----------|-------------|-------------------------|
| S  |          | 09397-22011 | ツール セット, ワンウェイ クラッチ テスト |
| S  |          |             |                         |
| T  |          |             |                         |
| 計器 | ダイヤル ゲージ |             |                         |

図8-79

取りはずし

(1) エンジン ルーム内の次のものを取りはずす。

- ① バッテリ ⊖ 端子
- ② 冷却水を抜く。

〈参考〉

冷却水は、ラジエータのアツパ タンク部のみ抜き  
冷却水は保管する。

- ③ ラジエータ インレット ホース
- ④ エア クリーナ ケース

- ⑤ スロットル ケーブル (キャブレタ側)
- ⑥ アクセルレータ トルク ロッド (キャブレタ側)
- ⑦ ニュートラル セーフティ スイッチ配線
- ⑧ スタータ取り付けボルト (上側) (C-R X, H-R X系取り付けナット上側)
- ⑨ オイル フィラ チューブ (C-MX, E-MX系)
- ⑩ リヤ ボンド ケーブル
- ⑪ エア パイプ

- (2) 車室内からガス温度 センサ コネクタ とグロ  
メツトをはずす。

—————〈要点〉—————

右フロント シートを一番前にして、カーベツトの  
合せ目からはずす。(C-RX系は左フロント シート)

- (3) 車両をジャツキ アツプして、 スタンドでさ  
さえ次のものを取りはずす。

- ⑫ トランスミツシヨン フルードを抜く。
- ⑬ エンジン アンダ カバー
- ⑭ スタータ 取り付けボルト (下側)
- ⑮ プロペラ シャフト、センタ ベアリング

—————〈注意〉—————

IRS は、センタ部でボルトをはずし、前側のシャフ  
トのみ取りはずす。

- ⑯ トルク コンバータ 取り付けボ  
ルト (6本)

—————〈注意〉—————

C-RX, H-RX系はサービス ホール  
より取りはずす。

- (5) トランスミツシヨン ハウジン  
グの取り付けボルトを取り、ト  
ルク コンバータ とともにトラ  
ンスミツシヨンを後方へ引き出  
す。

—————〈注意〉—————

- 1 シリンダ ヘツド カバー後部にウエ  
スなどを当てておく。
- 2 C-RX, H-RX系…オイル フィ  
ラ チューブはハウジングと共締め  
のため、この時点で取りはずす。

- ⑰ エキゾースト パイプ クランプおよびエキ  
ゾースト パイプ切り離し

- ⑱ オイル クーラ チューブおよびクランプ

- ⑲ a シフティング ロッド

(コラム シフト)

- b コントロール ロッド

(フロア シフト)

- ⑲ スピードメータ ケーブル

- ⑳ 左右ステフナ プレート

- ㉑ フライホイール アンダ カバー

(C-MX, E-MX系)

- (4) トランスミツシヨンをジャツキ アツプする。

- ㉒ エキゾースト パイプ O リング

- ㉓ リヤ サポート メンバ

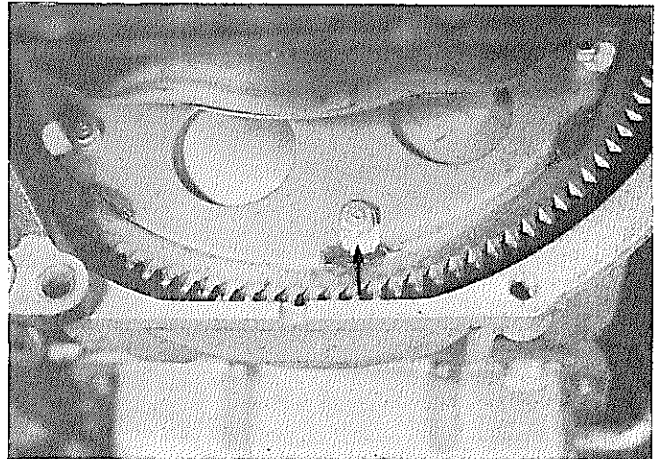


図8-80 コンバータ 取り付けボルト取りはずし

H0194

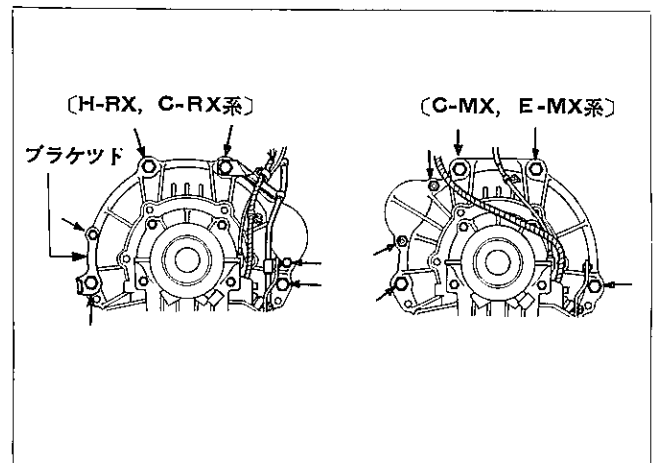


図8-81 トランスミツシヨン ハウジング  
取り付けボルト取りはずし

M1500

- (6) 必要に応じドライブ プレート & リング ギヤ サブ ASSY をクランクシャフトから取りはずす。
- (7) トランスミツシヨン からトルク コンバータを取りはずす。

〈注意〉

オイルが漏れるので、受皿を使用する。

点 検

(1) コンバータ

(ワン ウエイ クラツチ テスト)  
 コンバータ内ワン ウエイ クラツチのフリー側の状態 (ロックしているか否か) を必ず点検する。

点検要領

- ① SST [09397-22011] 中のレンチをステータ シャフトかん入部にそう入する。
- ② コンバータのスリーブ部から SST [09397-22011] 中のストップパをそう入し、ステータ スラスト、ワツシャ切り欠き部にかん合させる。
- ③ コンバータを立ててレンチを右に回す。このとき、片手で軽く回転すること。

許容回転トルク 25kg-cm以下  
 (参考値)

〈注意〉

ワン ウエイ クラツチのロック側の点検は、コンバータ単体で行なうことができないので、正規取り付け状態でのストールテストで確認する。  
 すなわち、ストール回転数が正常であれば、ワン ウエイ クラツチのロック側は正常である。  
 ストール回転数が低すぎる場合でエンジンの出力に異常がなければコンバータのワン ウエイ クラツチ ロック側の不良と判定する。

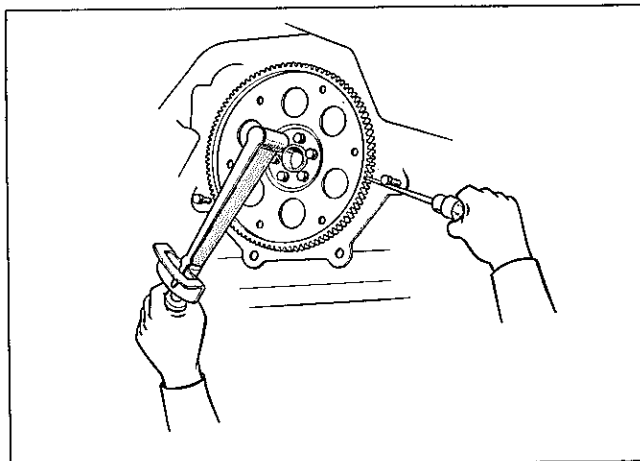


図8-82 ドライブ プレート取りはずし

M1501

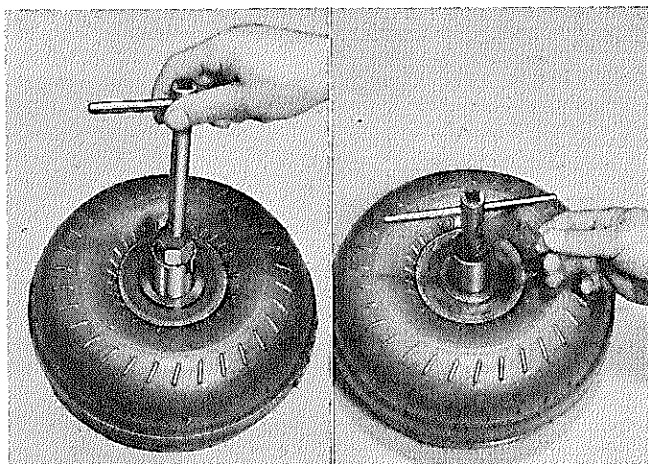


図8-83 SST取り付け

C2156 C2157

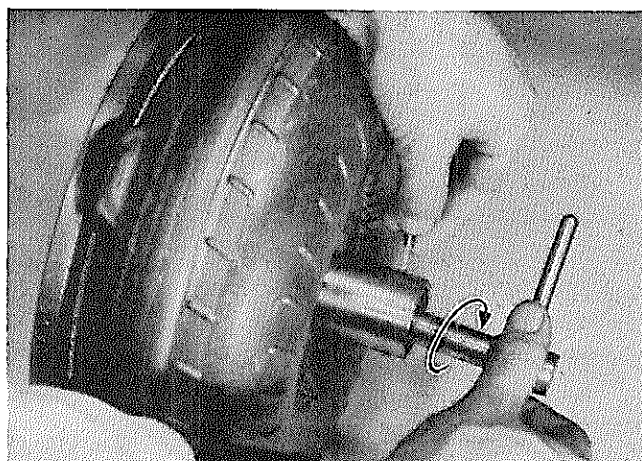


図8-84 ワン ウエイ クラツチ点検

C2164

- (2) ドライブ プレート & リング ギヤのトルク コンバータ取り付け面の振れを測定する。

振れ限度 0.12mm以下  
 限度以上あるときは、ドライブ  
 プレート & リング ギヤを交換  
 する。

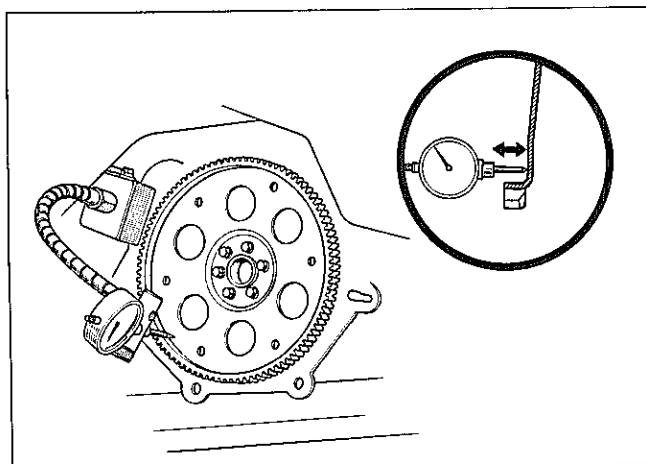


図8-85 ドライブ プレート & リング ギヤ振れ点検 M1502

取り付け

- (1) ドライブ プレートを取り付ける。

- ① クランクシャフトにドライブ  
 プレート フロント スペーサ、  
 ドライブ プレート アンド リ  
 ング ギヤ ASSY, ドライブ  
 プレート リヤ スペーサの順  
 で取り付け。

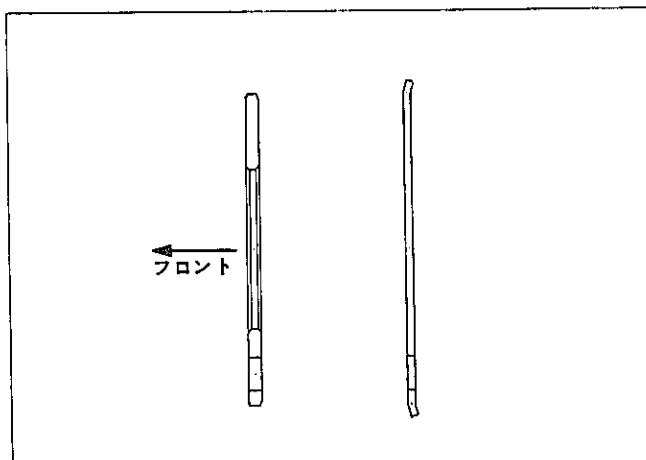


図8-86 ドライブ プレート スペーサ取り付け方向 M3614

- ② ドライブ プレート & リング  
 ギヤを密着した状態で対角線  
 上に平均的に締め付ける。

$T = 500 \sim 600 \text{ kg-cm}$

〈注意〉

ボルト穴はエアで完全に除却すること。

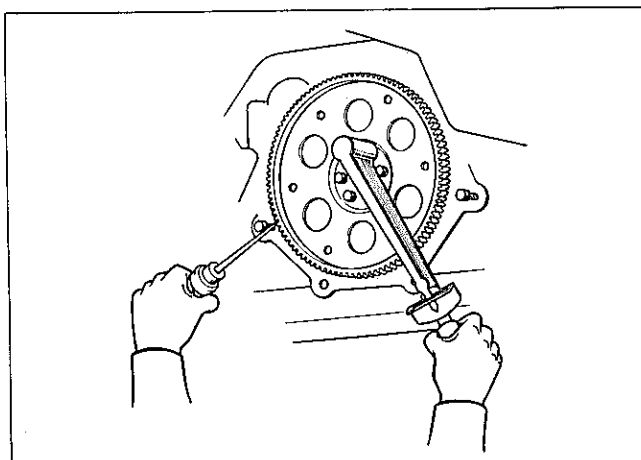


図8-87 リング ギヤ締め付け M1504

(2) クランクシャフトのトルク コンバータ センタ ピース インロ部 およびセンタ ピースにキャツスル MP グリースを塗布する。

(3) トルク コンバータにフルードを約2ℓ注入し、トランスミツシヨンにコンバータをそう入する。

—————〈注意〉—————

コンバータのスリーブでオイル ポンプのオイル シールを損傷しないこと。

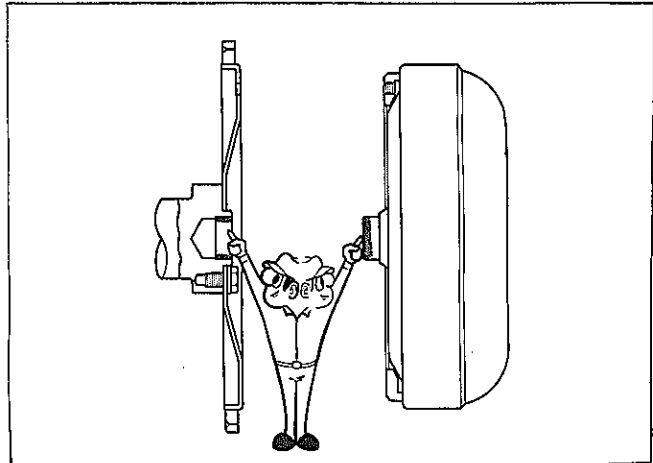


図8-88 グリース塗布箇所

S4976

(4) トルク コンバータがフロント オイル ポンプの駆動用キー と充分かみ合つて、軽く回転することを確認する。

—————〈注意〉—————

完全に入つたときには、トルク コンバータ センタ ピース フロント面と、トランスミツシヨン ハウジング前面との寸法ℓは次のとおりである。

|              |         |
|--------------|---------|
| 3T-U         | 約26mm   |
| 18R-U, 16R-J | 約20mm   |
| M-U, M-EU,   | } 約26mm |
| 4M-U         |         |

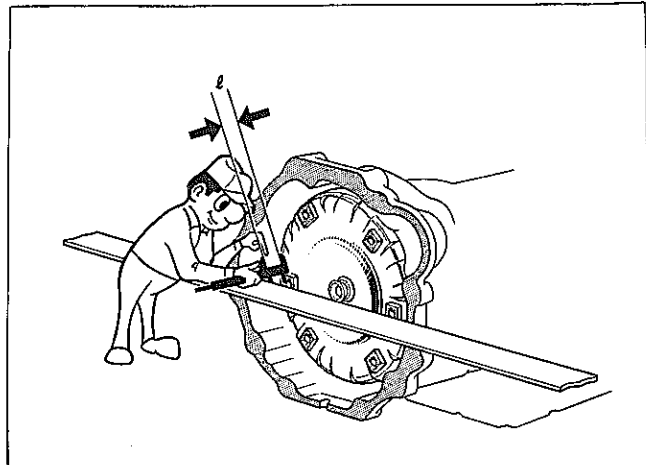


図8-89 トルク コンバータ組み込み

M3906

(5) トルク コンバータ取り付け用 ボルト穴の下側1個所にガイド ボルト1本を取り付ける。

—————〈注意〉—————

ガイド ボルトは太さ8mm 長さ約30mmのスタツド ボルトを使用するとよい。

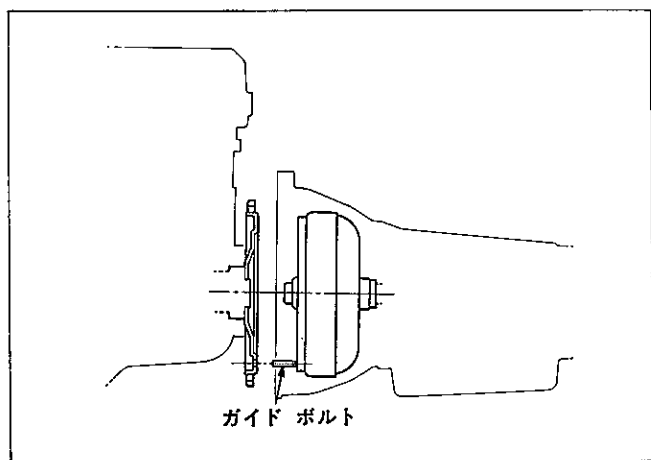


図8-90 トランスミツシヨン取り付け

M1635

- (6) トランスミッションのノック穴とエンジンのノックピンとを合わせトランスミッションハウジングを締め付ける。

ボルト2面幅 14mm

T=300~450kg-cm

ボルト2面幅 17mm

T=500~800kg-cm

—————〈注意〉—————

C-RX, H-RX系は、オイルフィルタチューブを取り付ける。

- (7) 他のボルトを(5本)仮り締めし、ガイドボルトをはずし、クランクシャフトを回して、平均的にトルクコンバータを締め付ける。

T=150~220kg-cm

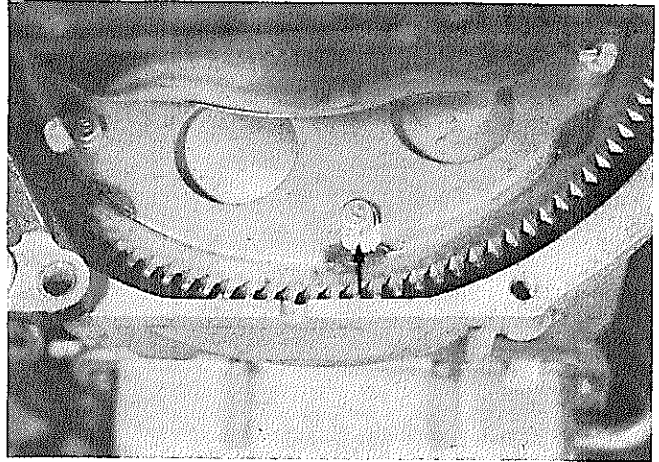


図8-91 コンバータ取り付け

H0194

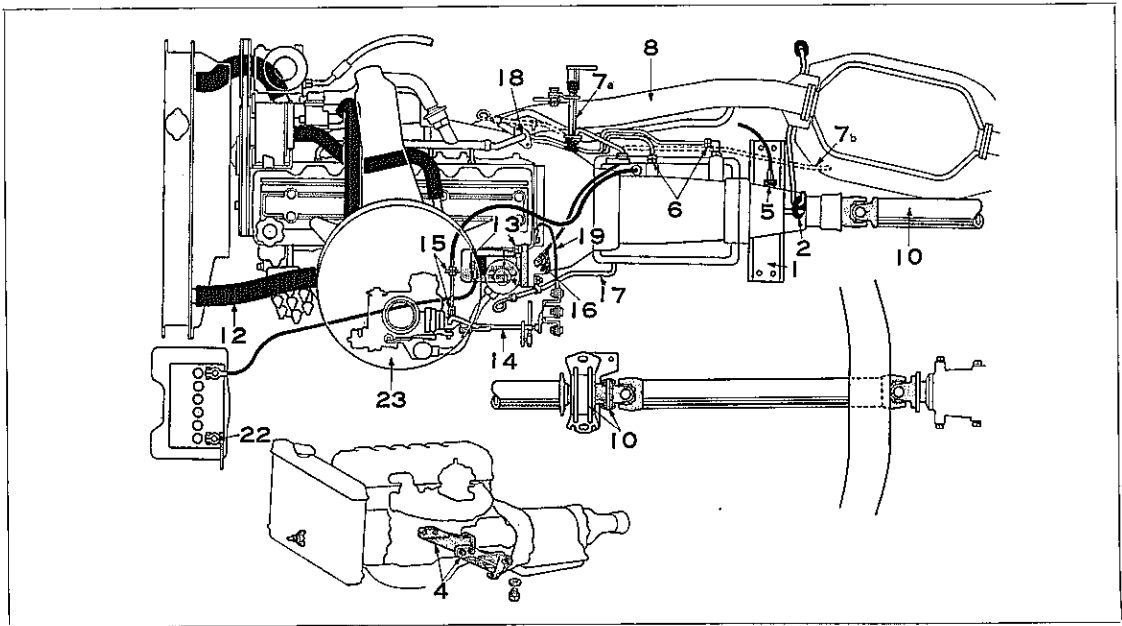


図8-92 トランスミッション取り付け

M2077

(8) 次の順序で取り付ける。

- ① リヤ サポート メンバ
- ② エキゾースト パイプ O リング
- ③ フライホイール アンダ カバー
- ④ 左右スチフナ プレート
- ⑤ スピードメータ ケーブル
- ⑥ オイル クーラ チューブおよびクランプ
- ⑦ a シフティング ロッド (コラム シフト)
- b コントロール ロッド (フロア シフト)
- ⑧ エキゾースト パイプ クランプおよびエキゾースト パイプ
- ⑨ スタータ取り付けボルト (下側)
- ⑩ プロペラ シャフト, センタ ベアリング
- ⑪ エンジン アンダ カバー

(9) エンジン ルームより次のものを取り付ける。

- ⑫ ラジエータ インレット, ホース
- ⑬ スタータ取り付けボルト (上側)  
(C-RX, H-RX系取り付けナット上側)
- ⑭ アクセルレータ トルク ロッド

- ⑮ スロットル ケーブル
- ⑯ ニュートラル セーフティ スイッチ配線
- ⑰ オイル フィラ チューブ (C-MX, E-MX系)
- ⑱ エア パイプ
- ⑲ リヤ ボンド ケーブル
- ⑳ 冷却水
- ㉑ キャツスル オートマテイツク フルード  
フルード量 4.3ℓ

㉒ バツテリ⊖端子

(10) 車室内でガス温度センサ コネクタとグロメツトを取り付ける。

(11) 各調整を行なう。(調整の項参照)  
調整終了後

㉓ エア クリーナ ケースを取り付ける。

(12) 走行テストをする。

a 各レンジにおいて騒音, 異音がないこと。  
各変速時に異常なシヨック, すべりがないこと。

b P レンジに入れたとき, 車両がロックすること。

c 走行後, 各部から油漏れのないこと。